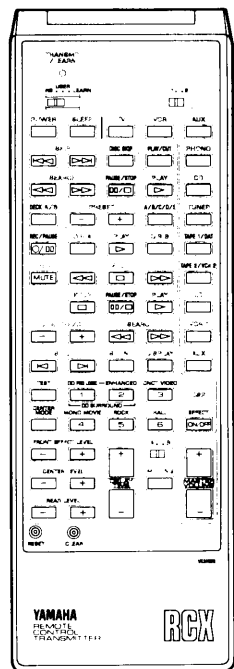
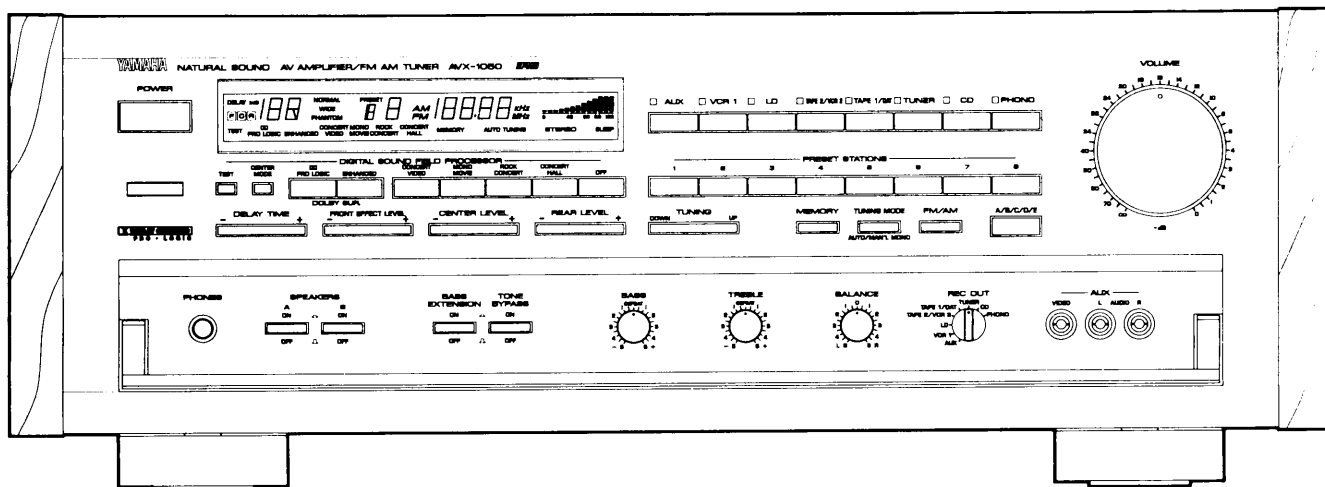


# AVX-1050

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER/FM AM TUNER

## 取扱説明書



このたびは、ヤマハ・FM/AMチューナー付AVアンプAVX-1050をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございました。AVX-1050の優れた性能を十分に発揮させ、末永くお使いいただくために、この取扱説明書をご使用の前に、ぜひお読みくださいますようお願いいたします。またお読みになったあとは、保証書と共に保管してください。

## 目次

特長	1
豊かなAVライフのために	2
ご使用前に	3
スピーカーの配置について	4
接続のしかた	
アンテナの接続	5
オーディオ機器の接続	6
ビデオ機器の接続	7
スピーカーの接続	8
他のアンプと組み合わせて使用する場合	9
電源コードの接続	10
各部の名称とはたらき	11~16
再生の準備	
各スピーカーの音量レベル調節	17/18
放送局のメモリー	19/20
再生のしかた	21/22
サラウンド効果	23/24
録音（録画）のしかた	25
タイマー再生／録音（録画）のしかた	25
スリープタイマー	26
バックアップについて	26
リモコンの学習操作	27/28
故障かなと思ったら	29
参考仕様	30
ブロックダイアグラム	31
ヤマハホットラインサービスネットワーク	32

## 保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

# YAMAHA

ご使用前に必ずお読みください。

# 特長

## ●高音質5チャンネルアンプの搭載

メイン、センター（デュアルセンター対応）に180W×3、エフェクトに50W×2、合計5チャンネルのハイパワー・マルチアンプを搭載。強力な電源部と厳選されたパーツにサポートされた、音質重視設計のアンプです。

## ●ドルビー プロ・ロジック&ヤマハ独自のエンハンスト・モードを搭載

デジタル ドルビー プロ・ロジックに加えエンハンストモードの採用により、シアターサラウンド効果の圧倒的な迫力と臨場感を再現しています。

## ●豊富な6モードDSPプログラムの選択

ドルビー プロ・ロジック&エンハンストの2モードに加えて、4つのAV音場プログラムをプリセット。再生するソースに合わせた音場を、自由に選択・付加することができます。

## ●40局プリセットチューナーを内蔵

5グループ8プリセットステーション高感度FM/AMチューナーを内蔵。合計40局のメモリーと、スピーディなワンタッチ選局が可能です。

## ●あらゆるAV機器に対応する入出力端子

オーディオ×3、ビジュアル×4（S端子×3装備）系統の入力端子、モニター×1、REC OUT×3等の出力端子。2系統のメインおよびセンター、リア・スピーカー出力端子。また、サブウーファーや外部アンプ、ヘッドホン等の出力端子を装備。多様なAV機器の接続と、システムの発展に対応できます。

## ●多彩なコントロール機能

6モードのDSPや、40局ステーションの呼び出しを始め、センター、フロント、リア独立のレベルコントロール。メイン単独の2バンド・トーンコントロールや、バスエクステンションコントロールを装備。あらゆるソースに対応できます。

## ●大型ディスプレイと多機能リモコンを装備

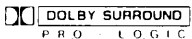
バックライト付き大型ディスプレイの内蔵により、動作中の各モードを表示。また、多機能ラーニングリモコンにより、リスニングポイントでのリモート操作が可能です。




これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

## 音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけています。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用下さい。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに快適な生活環境を守りましょう。

●  はドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。

ドルビー、DOLBYおよびダブルD記号  はドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションの登録商標です。

# 豊かなAVライフのために (使用上のご注意)

- 電源**  
 国内のみでご使用ください。  
 家庭用電源コンセント（AC100V）に接続してください。
- 電源コード**  
 電源コードはひっぱらないでください。（プラグを持って抜いてください。）  
 電源コードの上に重い物をのせないでください。  
 \*電源コードが断線したり、感電の原因になります。
- 本体**  
 キャビネットは開けないでください。  
 セットの中に金属類（針・硬貨など）を入れないでください。  
 セットの中に液体（水・アルコールなど）を入れないでください。  
 セットの中に燃えやすいもの（紙・布など）を入れないでください。  
 \*火災・感電・故障の原因になります。
- 設置場所**  
 ご使用中は熱を発生します。設置の際は通気性の良い場所を選び放熱を妨げないようにしてください。  
 ぐらついた台の上や、傾いた所には置かないでください。  
 \*落ちたり、倒れたりして危険です。  
 湿気の多い所、ほこりの多い所、直射日光の当たる所、温度の高い所、極端に寒い所には設置しないでください。  
 \*動作不良や故障の原因になります。
- 長期間**  
 旅行や外出などで長期間留守にされる場合は、安全のために電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。  
 \*不慮の事故が防げます。
- 異常や不具合が起きたら**  
 万一、異常や不具合が起きたときは、すぐに電源を切り、電源コードを必ずコンセントから抜いて、お買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

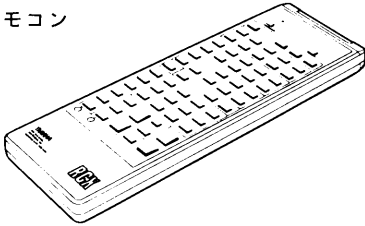
<b>高温・低温はさけて！</b> 窓際や直射日光のあたる場所・暖房器具のそばなど極端に暑い場所（周囲温度40℃以上）・温度の特に低い場所（周囲温度-5℃以下）・湿度の多い場所（湿度90%以上）は、さけてください。 		
<b>ほこり・水気をさけて！</b> 	<b>不安定な場所はさけて！</b> 	<b>国内のみ使用可</b> 家庭用電源コンセント AC100V 
<b>雷が近づいたら</b>  早めに電源プラグをコンセントから抜いてください。	<b>薬物厳禁</b> 	<b>開けないで！</b> 
<b>引っぱらないで！</b> 	<b>他のチューナーやテレビと近付けない！</b> 本機はデジタル信号を扱いますので、電波を扱う機器に障害を与える場合があります。他のチューナーやテレビなどとはできるだけ離して設置してください。障害をなくすために、他のチューナーやテレビのアンテナには外部アンテナを使用し、同軸ケーブルで配線することをお勧めします。 	
<b>セット上面の通風孔をふさがない</b>  放熱を妨げないため、セット上面の通風孔の上に敷き物や、レコードなどを絶対に置かないでください。	<b>こわれた？</b>  29ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。	<b>取扱説明書はかならず保管してください。</b>  ファイルなど

# ご使用前に

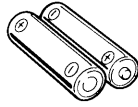
## ■付属品

付属品を確認してください。付属品は6種類あります。

リモコン

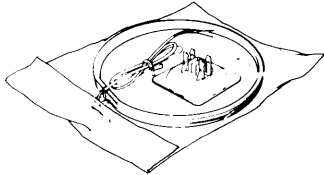


単3アルカリ乾電池  
2本

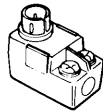


AMループアンテナセット

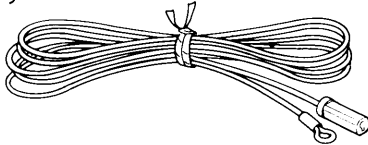
(AMループアンテナ・スタンド)



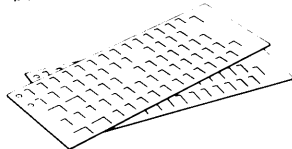
F型プラグアダプター



FM簡易アンテナ

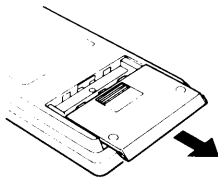


リモコンシート 2枚

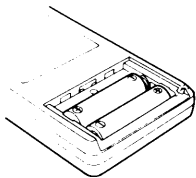


## ■リモコンに電池を入れてください。

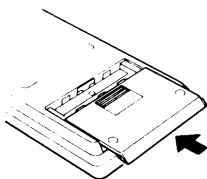
1. リモコンの裏ぶたを開けます。



2. 付属の単3アルカリ乾電池2本をケース内の指示にしたがって、“+”“-”を正しく入れます。



3. カチッと音がするまで裏ぶたを閉めます。



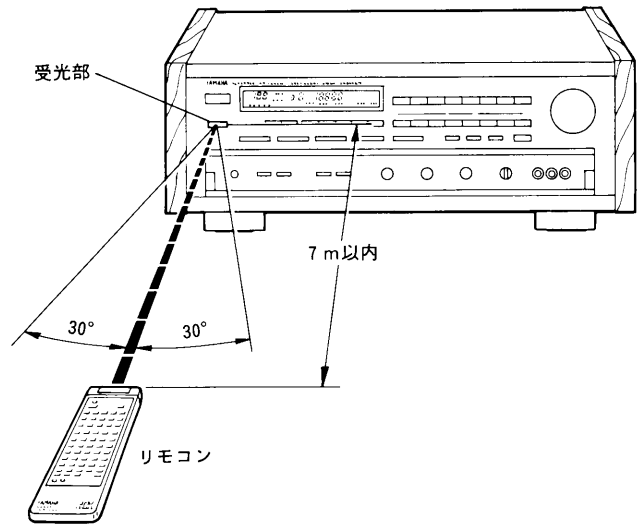
## ■乾電池についてのご注意

- ・プラス(+)とマイナス(-)の向きを、リモコンの電池ケースの表示通りに正しく入れてください。
- ・弱ってきた電池は早めに交換してください。
- ・新しい乾電池と一度使用したものを混ぜて使わないでください。
- ・種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。

## ■リモコンの使用範囲について

リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本機およびCD、LDなどの受光部に向けて正しく操作してください。

- ・受光部を覆ったり、リモコンと受光部の間に障害物があると動作しません。
  - ・受光部に直射日光や強い照明(インバーター蛍光灯・ストロボライトなど)が当たっているとリモコンが動作しにくくなります。
- 照明または製品本体の向きを変えてください。



## ●リモコンの取り扱い

リモコンはていねいに扱ってください。

お茶や水をこぼしたり、落としたりしないでください。また、下記の所には置かないようご注意ください。

- ・ストーブのそばや風呂場など温度・湿度の高いところ。
- ・ほこりの多いところ。
- ・極端に寒いところ。

## ■乾電池の交換

乾電池が消耗してきますと、リモコンの操作可能距離が極端に短くなったり、キーを押してもTRANSMIT/LEARNインジケーターが点滅しなくなります(あるいは暗くなる)ので、その場合は新しい乾電池(2本同時)と交換してください。

乾電池の交換の際、電池をはずしたまま、しばらく放置(3分以上)すると、学習(記憶)した命令が消えてしまうことがありますのでご注意ください。

また乾電池は、必ず単3乾電池をご使用ください。

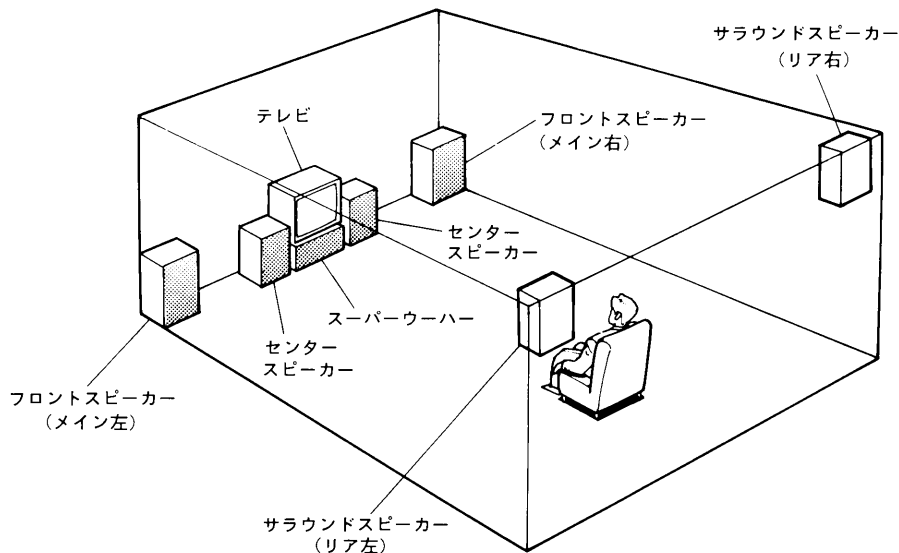
\*消耗した乾電池をそのまま入れておくと、学習した命令が消えてしまう場合があります。

もし学習した命令が消えてしまった場合は、新しい乾電池に交換して再度学習させてください。

\*乾電池は、なるべくアルカリ電池を御使用ください。

# スピーカーの配置について

DSP (DIGITAL SOUND FIELD PROCESSOR) 効果を最大限発揮させるため、下図のようにスピーカーを設置するのが理想です。



## ■スピーカーについて

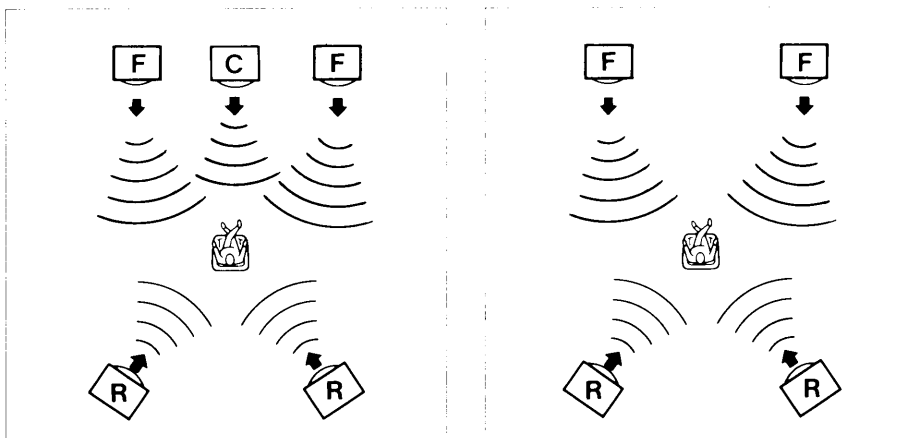
従来の2チャンネルステレオで使用する2本のスピーカー(メインL、R)に加えて、ドルビー・プロロジック・サラウンド効果を最大限に発揮させるためのセンタースピーカー、そしてリスナーの後方に設置するリアスピーカーの計5本のスピーカーを使用してください。

しかしリスニングルームの状況によりセンタースピーカーを設置するのが困難な場合は、センタースピーカーを使用しない1本のスピーカー構成でも本機のサラウンド効果を充分にお楽しみいただけます。

- \*メイン、センター、リアの各スピーカーは音質の似たものをお使いください。
- \*4本のスピーカー構成の場合は、CENTER MODEを“PHANTOM”に設定してください。(18ページの4参照)
- \*本機は、センタースピーカーを2本使用することもできます。その場合センタースイッチを“C+D”に設定してください。(8ページ)
- \*本機にはSUPER WOOFER端子を装備していますので、スーパーウーハーを使用して低音域をさらに補強することができます。
- \*センタースピーカーおよびスーパーウーハーは、防磁タイプのスピーカーをお使いください。テレビの画面が乱れることがあります。テレビとスピーカーの距離を離してお使いください。

## ■スピーカーレイアウトについて

スピーカーの配置は、部屋の大きさや残響特性などにより、いろいろなパターンが考えられます。ここに示した配置例は代表的な例です。それ以外にもいろいろな配置があります。お好みに合わせてお楽しみください。



標準的な置き方

状況によりセンタースピーカーを使用しない場合

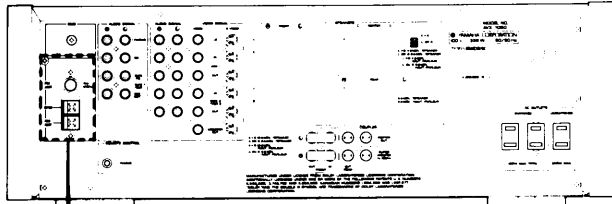
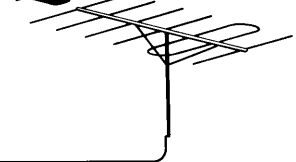
# 接続のしかた(1)

## ■アンテナの接続

FM放送を確実に受信するためには、受信する地域の電波の強さに応じたFM専用屋外アンテナを設置することをお勧めします。

\*FM専用屋外アンテナに関しては、ご購入店とご相談ください。

FM放送局の方向へ FMアンテナ (市販品)



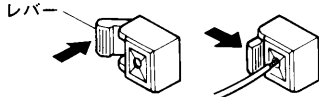
付属のFM簡易アンテナ (近距離の場合)

このアンテナは、あくまでも簡易的なもので、より良い音質で受信するためには、専用の屋外アンテナを設置することをお勧めいたします。

ピンに差し込みます

付属のF型プラグアダプター

レバーを横に倒します。AMループアンテナのリード線を差し込み、レバーをおこしロックさせます。



AM専用ループアンテナは、スタンドから取りはずして壁などに掛けて使用することができます。壁が金属や鉄筋の場合受信感度が悪くなる場合がありますのでご注意ください。

付属のAMループアンテナ

はめこみます

スタンド

ビニール被覆線

AM専用ループアンテナで受信状態が良くない場合は、市販の5~10mのビニール被覆線を屋外に張ってください。(AMループアンテナも同時に使用してください。)

アース

## アースについて

通常の受信では必要ありませんが、雑音防止と安全のために地中アースを設置されることをお勧めします。

アースは、AM ANT GND端子に接続した市販のビニール被覆線に、市販のアース棒あるいは銅板を付け、湿気の多い地中に深く埋めてください。

\*水道管やガス管にアース線を取り付けることは、感電や火災などの危険防止のため絶対におやめください。

## F型プラグアダプターの使いかた

### 同軸ケーブルの接続方法

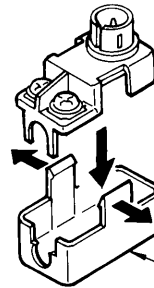
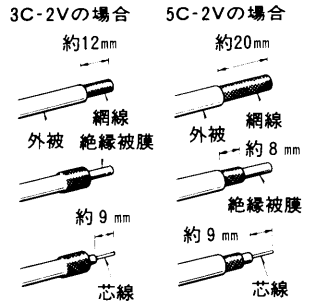
①同軸ケーブルの外被の先端をむきます。

・3C-2Vの場合は約12mmむき、網線を後方にかえます。

・5C-2Vの場合は約20mmむき、さらに網線を約8mm残して切り取ります。

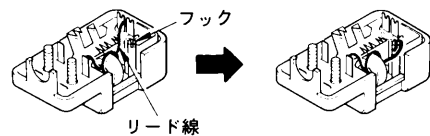
②絶縁被膜を約9mmむき芯線を出します。

③付属のF型プラグアダプターのカバーをはずします。



カバー

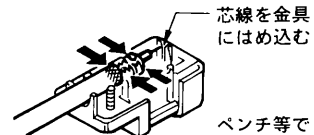
④図のリード線を金具からはずし、フックに掛けます。(リード線と金属部分がショートしない事。)



フック

リード線

⑤芯線を金具にはめ込み、網線部を金具でおさえます。



芯線を金具にはめ込む

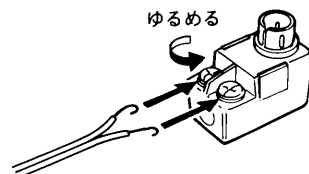
ペンチ等で金具を曲げておさえる。

⑥F型プラグアダプターのカバーをはめ、本体のFM ANT端子に差し込みます。

### 300Ω平衡フィーダーの接続方法

①付属のF型プラグアダプターのネジをゆるめ、アンテナの芯線をまるめてはさみ、再びネジをしめます。

ゆるめる



②F型プラグアダプターを本体のFM ANT端子に差し込みます。

\*300Ω平衡フィーダーを使用するときは、F型プラグアダプターの内部処理をする必要はありません。

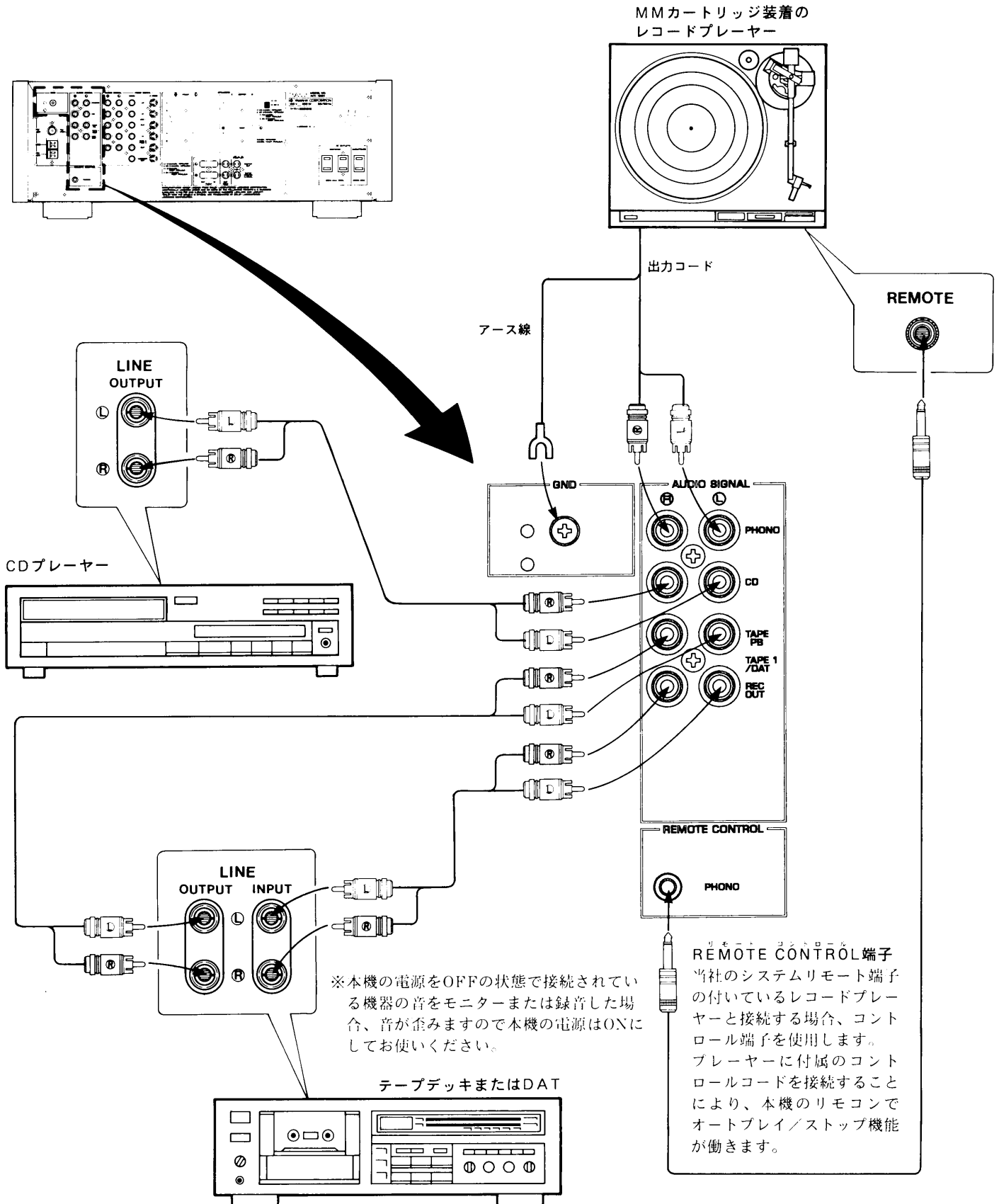
# 接続のしかた(2)

## ■オーディオ機器の接続

- ・接続するときは各機器の電源を切ってください。
- ・右チャンネル (R)、左チャンネル (L)、入力 (IN)、出力 (OUT) を確認して正しく接続してください。
- ・接続する機器によって端子名などが異なることがあります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

## PHONO端子について

- MMカートリッジまたは高出力型MCカートリッジ付きのレコードプレーヤーを接続します。
- \* MCカートリッジ付きのレコードプレーヤーを接続するときは、昇圧トランスあるいは、MCヘッドアンプをご使用になって本端子に接続してください。



# 接続のしかた(3)

## ■ビデオ機器の接続

- ・接続するときは各機器の電源を切ってください。
- ・右チャンネル (R)、左チャンネル (L)、入力 (IN)、出力 (OUT) を確認して正しく接続してください。
- ・接続する機器によって端子名などが異なることがあります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

- ・本機では、ビジュアル系の入・出力端子は黄色、オーディオ系入・出力端子の左 (L) チャンネルは白色、右 (R) チャンネルは赤色になっています。

### S-VIDEO端子について

LDプレーヤー、VCR、テレビにS-VIDEO端子のある場合、接続できます

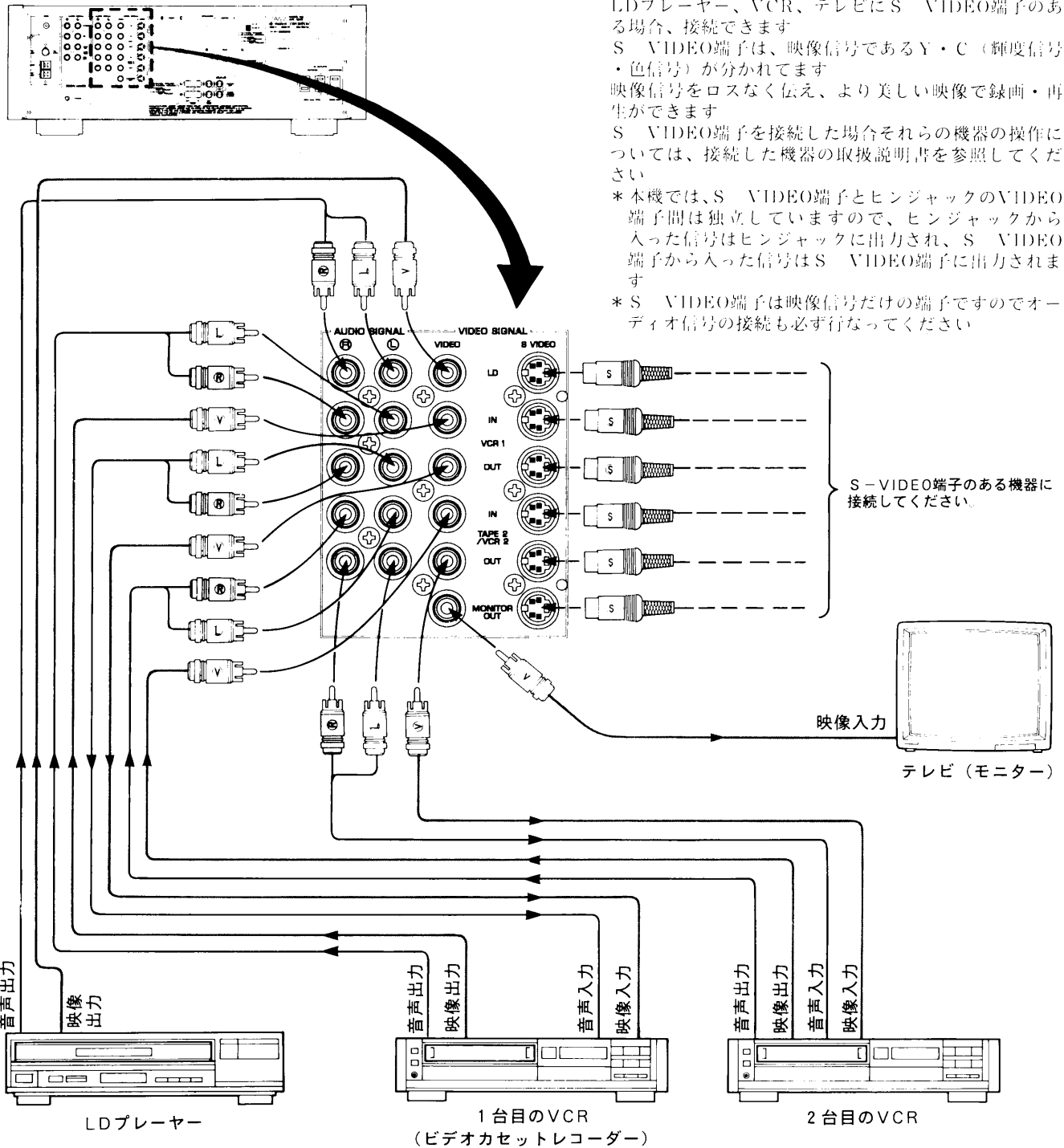
S-VIDEO端子は、映像信号であるY・C(輝度信号・色信号)が分かれてます

映像信号をロスなく伝え、より美しい映像で録画・再生ができます

S-VIDEO端子を接続した場合それらの機器の操作については、接続した機器の取扱説明書を参照してください

\*本機では、S-VIDEO端子とヒンジャックのVIDEO端子間は独立していますので、ヒンジャックから入った信号はヒンジャックに出力され、S-VIDEO端子から入った信号はS-VIDEO端子に出力されます

\*S-VIDEO端子は映像信号だけの端子ですのでオーディオ信号の接続も必ず行なってください



S-VIDEO端子のある機器に接続してください。

映像入力

テレビ (モニター)

音声出力  
映像出力

LDプレーヤー

音声出力  
映像出力

1台目のVCR  
(ビデオカセットレコーダー)

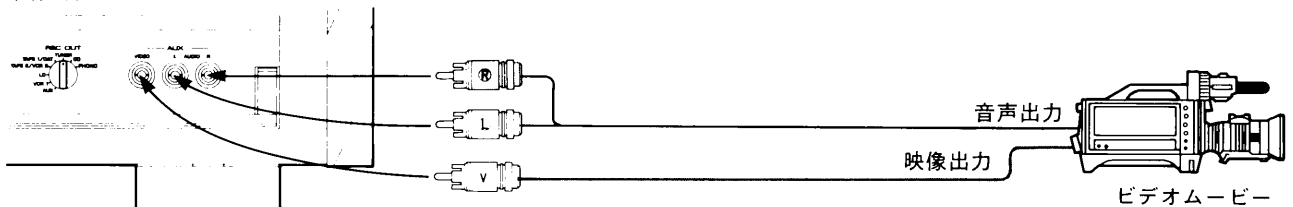
音声入力  
映像入力

音声出力  
映像出力

音声入力  
映像入力

2台目のVCR

本体前面 (右下)



音声出力

映像出力

ビデオムービー

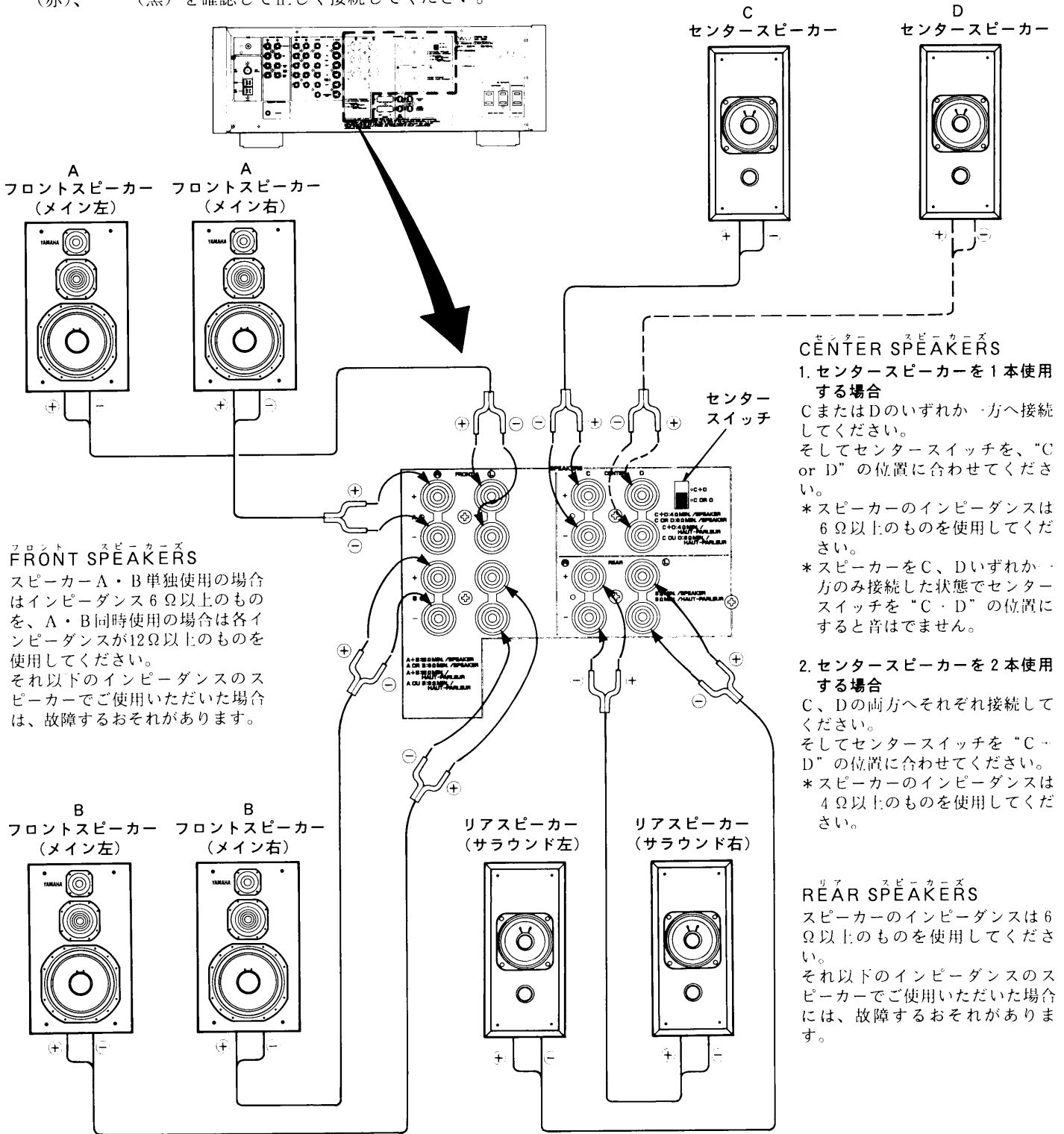


# 接続のしかた(4)

## ■スピーカーの接続

- ・接続するときは本機の電源を切ってください。
- ・接続の際、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、“+” (赤)、“-” (黒)を確認して正しく接続してください。

極性(+, -)を間違えて接続した場合、不自然な再生音となることがあります。



### FRONT SPEAKERS

スピーカーA・B単独使用の場合はインピーダンス6Ω以上のものを、A・B同時使用の場合は各インピーダンスが12Ω以上のものを使用してください。それ以下のインピーダンスのスピーカーでご使用いただいた場合は、故障するおそれがあります。

### CENTER SPEAKERS

1. センタースピーカーを1本使用する場合  
CまたはDのいずれか一方へ接続してください。そしてセンタースイッチを、“C or D”の位置に合わせてください。  
\*スピーカーのインピーダンスは6Ω以上のものを使用してください。  
\*スピーカーをC、Dいずれか一方のみ接続した状態でセンタースイッチを“C・D”の位置にすると音はできません。

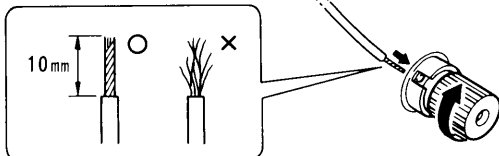
2. センタースピーカーを2本使用する場合  
C、Dの両方へそれぞれ接続してください。そしてセンタースイッチを“C・D”の位置に合わせてください。  
\*スピーカーのインピーダンスは4Ω以上のものを使用してください。

### REAR SPEAKERS

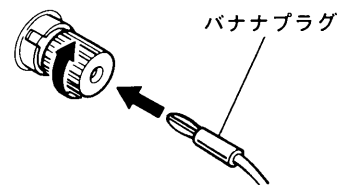
スピーカーのインピーダンスは6Ω以上のものを使用してください。それ以下のインピーダンスのスピーカーでご使用いただいた場合は、故障するおそれがあります。

### スピーカーコードの接続

スピーカーコードの先端の絶縁部を10mm位はがしてください。芯線がバラけてショートしやすいため、手でしっかりよりを掛けてから、スピーカー端子の穴に差し込み、締めつけてください。



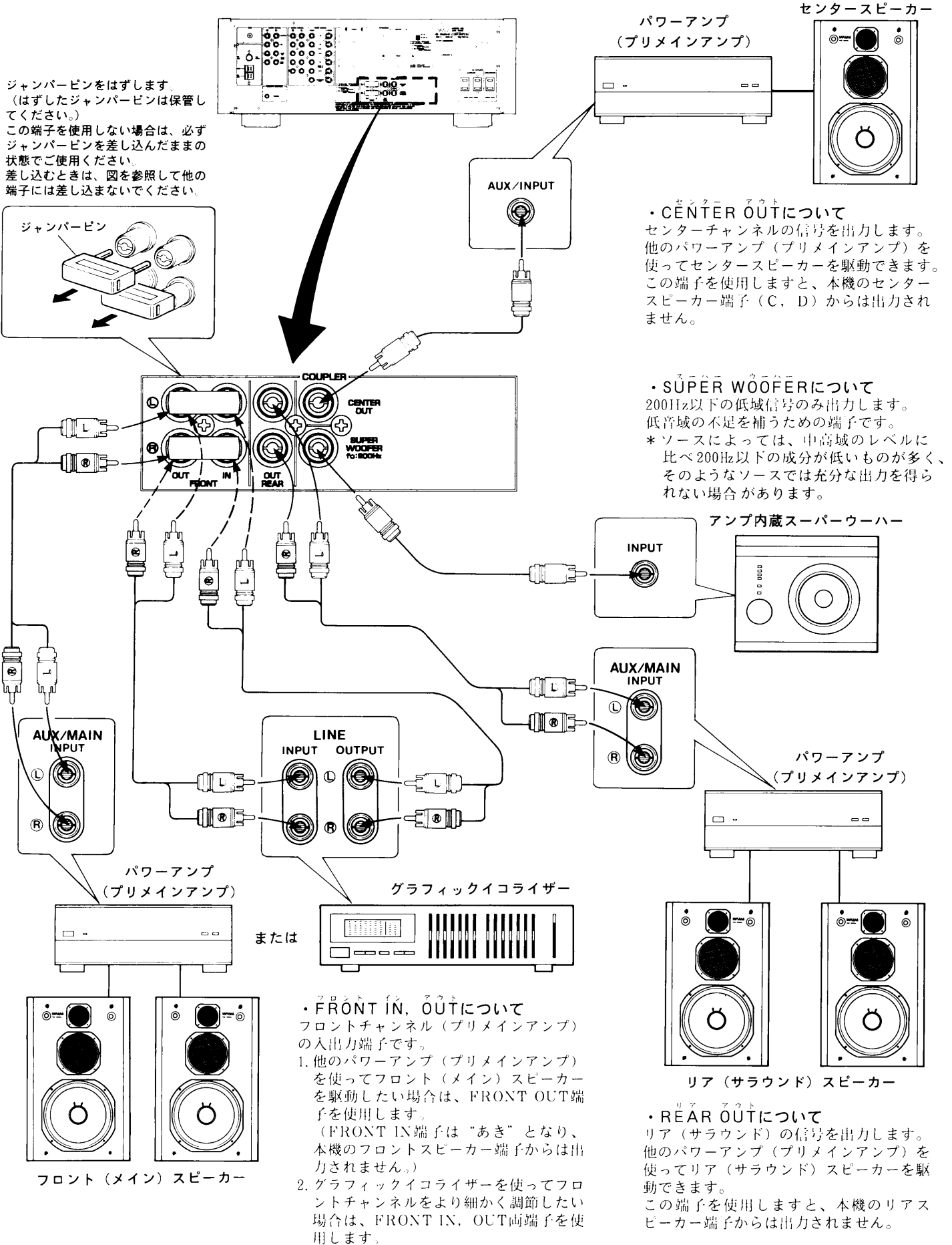
バナナプラグを使用する場合は、端子を強くしめてから差し込んでください。



# 接続のしかた(5)

## ■他のアンプと組み合わせて使用する場合

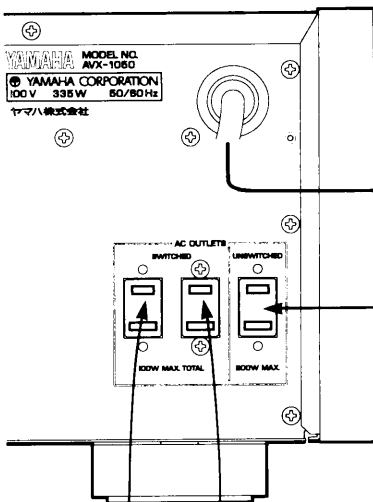
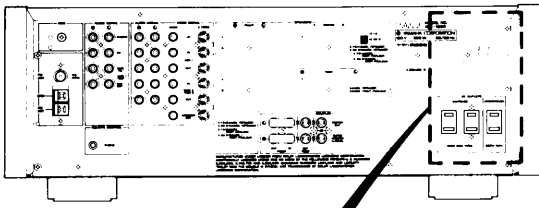
- ・接続するときは各機器の電源を切ってください。
- ・右チャンネル (R)、左チャンネル (L)、入力 (IN)、出力 (OUT) を確認して正しく接続してください。
- ・接続する機器によって端子名などが異なることがあります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。



# 接続のしかた(6)

## ■電源コードの接続

- ・接続に誤りのないことを確かめてから、電源コードを接続してください。

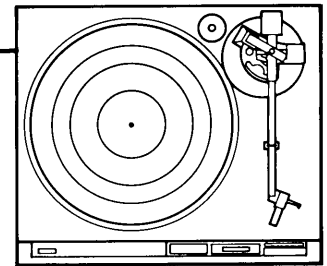


### 電源コード

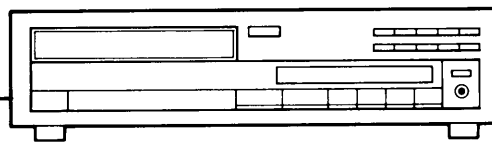
本機の消費電力は335Wです。  
必ず壁の家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントにプラグを接続してください。  
また、接続の際はプラグの“□”マークされた側をコンセントの長い方の穴に合わせて差し込んでください。

### アンスイッチド UNSWITCHED

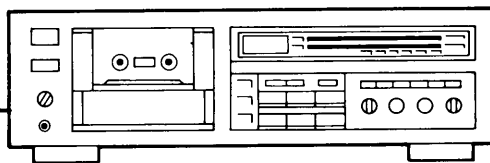
本機POWERスイッチのON/OFFとは無関係に、消費電力200Wまでのオーディオ機器に電源を供給することができます。  
(本機コンセントの下穴(長い方の穴)がアース側となっております。接続するオーディオ機器が極性表示されている場合には、極性を合わせて差し込んでください。)



レコードプレーヤーなど



CD/LDプレーヤーなど



テープデッキなど

### スイッチド SWITCHED

本機のPOWERスイッチと連動しています。  
2つのAC OUTLETに合計消費電力が100Wまでのオーディオ機器を接続できます。  
(本機コンセントの下穴(長い方の穴)がアース側となっております。接続するオーディオ機器が極性表示されている場合には、極性を合わせて差し込んでください。)

# 各部の名称とはたらき(1).....リモコンは15, 16ページを参照してください。

この部分は13, 14ページを参照してください。

## POWERスイッチ

本機の電源をON、OFFするスイッチです。ONにすると、電源をOFFする直前の状態に表示器やインプットセレクターのインジケータが点灯します。また、VOLUMEコントロールのインジケータが点灯します。

- \*電源がONになっても数秒間は本機のミュート機能の働きにより音はでません。
- \*本機のインプットセレクターは電子スイッチを使っています。本機の電源をOFFにし、接続されている機器を直接ヘッドホン試聴する場合は、音が歪むことがあります。そのようなときは、本機の電源をONにしてください。
- \*スピーカー保護のため必要な接続機器の電源をONにしたあと、本機のボリュームが絞られていることを確認してから本機の電源をONにしてください。

## リモコン受光部

付属のリモコンからコントロール信号(赤外線)を受光するところです。

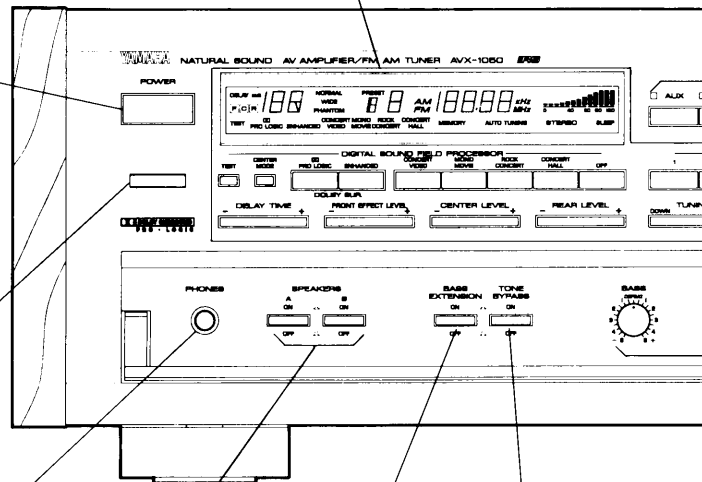
## PHONESジャック

ヘッドホンを接続するジャックです。ヘッドホンを接続すると、センターおよびリアスピーカーからの音はでません。ただしフロント(メイン)スピーカーからの音はでますので、ヘッドホンを聞くときには、SPEAKERSスイッチをA・BともOFF(■)にしてください。

## SPEAKERSスイッチ

本機に接続されたフロント(メイン)スピーカー(A・B)を選択するスイッチです。Aのスイッチを押すとA端子に接続されたフロントスピーカーから音がでます。Bのスイッチを押すとB端子に接続されたフロントスピーカーから音がでます。A・B両方のスイッチを押すとA・B両方のフロントスピーカーから音がでます。

- \*SPEAKERSスイッチをON、OFFするときは、必ずVOLUMEを絞ってから行なうようにしてください。



## BASS EXTENSIONスイッチ

フロント(メイン)スピーカーの低音域を補強したいときには、このスイッチをON(■)にします。

- \*ソースによっては、効果が顕著に現れないことがあります。

## TONE BYPASSスイッチ

スイッチをON(■)にするとトーンコントロール回路をパスし、トーンコントロールの各ツマミの位置に関係なくフラットな特性になります。OFF(■)にするとトーンコントロール回路が働きます。

### インプットセレクター

再生するソースを選択します。  
押すと選択したソースのインジケータが  
点灯します。

### VOLUMEコントロール/インジケータ

各スピーカーの音量をコントロールします。  
右に回すほど音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。  
VOLUMEインジケータは本機の電源がONのとき点灯し、  
ミュート時は点滅します。

### AUX端子

ビデオ機器の予備端子です。  
機器の映像出力端子とVIDEO端子を、音声出力端子と  
AUDIO L, R端子を接続します。  
ビデオムービーなど移動が多い機器の接続に便利です。

### シーリングパネル

ひんぱんに操作する必要のないスイッチやコントロール類  
を収納することができますので、シーリングパネルを閉めて  
おきますと、すっきりとしたパネルフェイスになります。  
開けるときは、パネル下部を軽く押して開けてください。

### BALANCEコントロール

フロント（メイン）スピーカー  
の左右の音量バランスを調節し  
ます。  
左（L）に回すと、右のスピー  
カーの音量が小さくなり、右  
（R）に回すと、左のスピー  
カーの音量が小さくなります。

### REC OUTセレクター

録音したいソースを選択します。  
インプットセレクターで選択しているソースとは関係なく、  
録音できます。

### トーンコントロール

#### BASSコントロール

低音域を・10dBの範囲でコントロールできます。  
ツマミを右に回すとブースト（増強）され、左に回すと  
カット（減衰）されます。“DEFEAT”の位置で  
は、フラットな周波数特性となります。

#### TREBLEコントロール

高音域を・10dBの範囲でコントロールできます。  
ツマミを右に回すとブースト（増強）され、左に回すと  
カット（減衰）されます。“DEFEAT”の位置で  
は、フラットな周波数特性となります。

\*トーンコントロールで調節できるのは、フロント（メイン）スピーカーです。センターおよびリアスピーカーは調節  
できません。

# 各部の名称とはたらき(2) ……リモコンは15, 16ページを参照してください。

## CENTER MODEキー

センタースピーカーのモードを選択します。キーを押すたびに表示器のセンターモードインジケータが順に点灯します。  
\*ドルビーサラウンドモード(  PRO LOGIC・ENHANCED) 時のみ動作します。

**NORMAL** ……センタースピーカーに小型のスピーカーを使用したときのモードです。センターチャンネル信号の低音域をフロント(メインL, R)スピーカーに振り分けま

す。  
**WIDE** ……センタースピーカーにフロント(メインL, R)スピーカーと同等のスピーカーを使用したときのモードです。センターチャンネル信号は、そのままセンタースピーカーに出力されます。

**PHANTOM** ……センタースピーカーを使用しないときのモードです。センターチャンネル信号は、フロント(メインL, R)スピーカーに同レベルで振り分けま

## DELAY TIMEキー

ディレイタイム(遅延時間)をコントロールできます。キーの“+”側を押すと値が増え、“-”側を押すと減ります。  
\*TEST ON時、SURROUND OFF時は動作しません。

## FRONT EFFECT LEVELキー

フロント(メインL, R)スピーカーのエフェクト(サラウンド)レベルを調節します。キーの“+”側を押すとフロントのエフェクト量が増え、“-”側を押すと減ります。  
\*  PRO LOGIC以外のサラウンドモードで動作します。

## CENTER LEVELキー

センタースピーカーの出力を調節します。キーの“+”側を押すとセンタースピーカーの音量が増え、“-”側を押すと減ります。  
\*  PRO LOGIC, ENHANCEDのCENTER MODEがNORMAL, WIDEの時のみ動作します。

## REAR LEVELキー

リア(サラウンド)スピーカーの出力を調節します。キーの“+”側を押すとリアの音量が増え、“-”側を押すと減ります。

## TUNINGキー

FMまたはAMの放送局を選局します。キーの“DOWN”側を押すと受信周波数が低くなり、“UP”側を押すと高くなります。

## OFF (サラウンド) キー

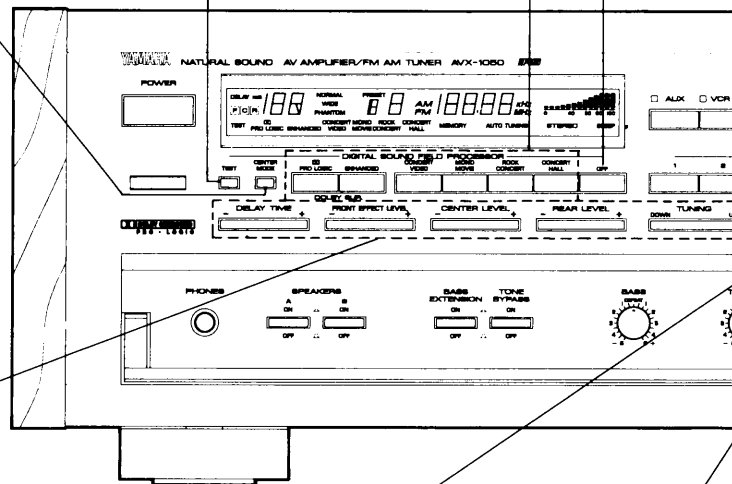
サラウンドモードをOFFにするキーです。キーを押すとフロント(メインL, R)のみ出力され、通常のステレオ再生となります。サラウンド再生したい場合は、再度サラウンドモードを選択してください。

## サラウンドセクター

サラウンドモードを選択するキーです。詳しくは、23ページの『サラウンドモードの特長』を参照してください。

## TESTキー

テストノイズ信号(ザー音)をON, OFFするキーです。ONにすると、本機内蔵のテストジェネレーターによりテストノイズ信号を発生します。  
\*サラウンドモード(EFFECT)がOFFの状態ではテストノイズ信号は発生しません。



## MEMORYキー

放送局をメモリー(プリセット)するキーです。

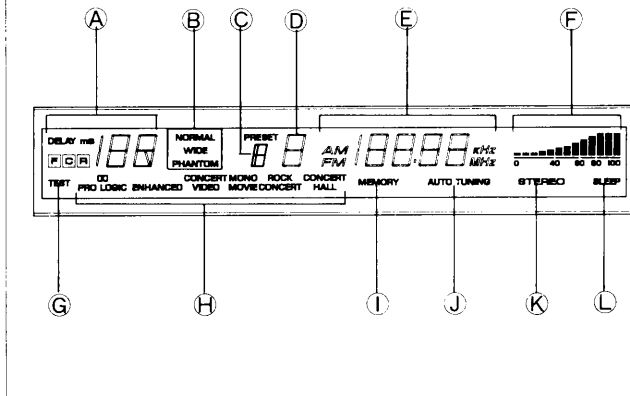
## TUNING MODEキー

放送の受信モードを選択します。

**AUTO** ……表示器のAUTO TUNINGインジケータが点灯します。TUNINGキーを押すと自動的に放送局を受信するまで探します。

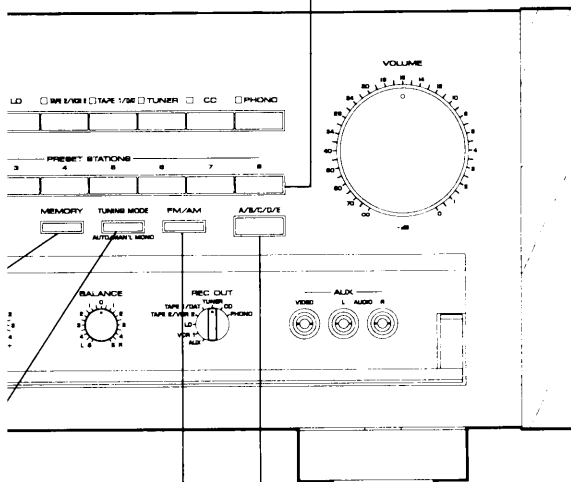
**MAN'L MONO** ……表示器のAUTO TUNINGインジケータが消えます。マニュアル選局となります。電波の弱い放送局が受信できます。マニュアル選局では、FMステレオ放送を受信してもモノラル受信となります。

表示器



プリセットステーションキー  
PRESET STATIONSキー

希望するプリセットステーション (1~8) を選局します。



プリセットグループキー  
A/B/C/D/Eキー

プリセットのグループ (A, B, C, D, E) を選択します。キーを押すごとに、表示器のプリセットグループインジケータが表示します。

FM/AMキー

バンド (FM, AM) を選択します。キーを押すごとにFM ↔ AM交互に切り替わります。

- Ⓐ サラウンドマルチインジケータ  
ディレイタイム、フロントエフェクトレベル、センターレベル、リアレベルの値を表示します。

ディレイタイム (遅延時間)

DELAY ms.....ディレイタイム (遅延時間) を表示します。

- Ⓕ.....フロントエフェクトレベルを表示します。
- Ⓖ.....センターレベルを表示します。
- Ⓓ.....リアレベルを表示します。

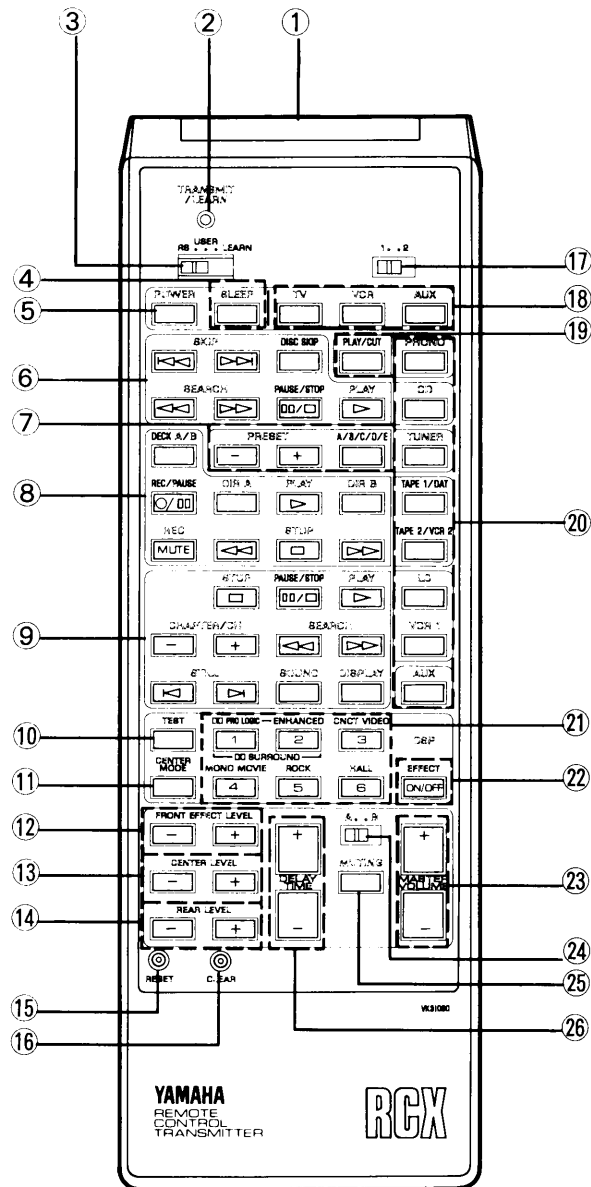
\*フロントエフェクト、センター、リアの信号出力がないとき (詳しくは、24ページ) に、“-” を表示します。

\*TEST時には  $\rightarrow$  “L”  $\rightarrow$  “C”  $\rightarrow$  “R”  $\rightarrow$  “S” の表示をします。(詳しくは17ページを参照してください。)

\*スリープタイマーの設定中には、設定時間を表示します。(詳しくは26ページを参照してください。)

- Ⓑ センターモードインジケータ  
CENTER MODEキーで選択されたセンターモード (NORMAL, WIDE, PHANTOM) が点灯します。  
\*  $\square$  PRO LOGIC, ENHANCEDのサラウンドモード時のみ表示します。
- Ⓒ グループインジケータ  
プリセットステーションのグループ (A, B, C, D, E) を表示します。
- Ⓓ プリセットステーションインジケータ  
プリセットステーション (1~8) を表示します。
- Ⓔ 受信周波数インジケータ  
FMまたはAM放送の周波数を表示します。
- Ⓕ シグナルクオリティインジケータ  
受信している放送電波の強さを表示します。アンテナの設置時は、このインジケータが多く点灯するように高さや方向を調節してください。
- Ⓖ TESTインジケータ  
TESTキーがONのときは、このインジケータが点滅します。
- Ⓖ サラウンドモードインジケータ  
サラウンドセレクターで選択されたサラウンドモードが点灯します。
- Ⓖ MEMORYインジケータ  
MEMORYキーを押すと点滅します。
- Ⓖ AUTO TUNINGインジケータ  
AUTO TUNINGキーでAUTOを選択しているときに点灯します。
- Ⓖ STEREOインジケータ  
FM放送をステレオ受信すると点灯します。TUNINGキーでMAN'L MONOを選択している場合は点灯しません。
- Ⓖ SLEEPインジケータ  
リモコンでスリープモードを設定しますと点灯します。(設定中は点滅します。)

# 各部の名称とはたらき(3) ……本体は11~14ページを参照してください。



## ① 送・受信窓

リモコンのコントロール信号を(赤外線)を送・受信する窓です。

## ② TRANSMIT/LEARNインジケータ

リモコン信号を送り出しているときに点滅します。  
LEARN(学習)モードで、相手側リモコンからの受信時は点灯します。また受信エラーや消去動作時は点滅しません。

## ③ モードスイッチ

リモコンの動作モードを選択します。

RS ……ヤマハのRS対応機器をリモコン操作するときのモードです。  
\*RSマークの付いたヤマハの機器はRS対応機器です。

USER ……他のリモコンを学習させて操作するときのモードです。  
\*最初はRSモードと同じリモコンコードが記憶されます。  
\*学習とはヤマハのRSコードの上への書き込みを意味します。

LEARN ……リモコン信号を学習(記憶)させるときのモードです。

## ④ SLEEPキー(学習可能)

スリープタイマーを設定するキーです。  
前回設定した値から始まり、押すごとに  
→120 →90 →60 →30 →OFF となります。  
(単位:分)

## ⑤ POWERキー(学習可能)

本機の電源をON, OFFするキーです。

## ⑥ CD操作キー(学習可能)

ヤマハのRS対応のCDプレーヤーを操作するキーです。  
CDプレーヤーのリモコンに表示されているキー名称と同じはたらきをします。  
\*詳しくは、CDプレーヤーの取扱説明書を参照してください。

PLAY ……CD演奏がスタートします。  
PAUSE/STOP ……一度押すと一時停止し、もう一度押すと演奏が停止します。

SKIP <<< ……曲の頭に戻る。  
>>> ……次の曲の頭に進む。

SEARCH <<< ……早戻し。  
>>> ……早送り。

DISC SKIP ……CDチェンジャーのディスク選択



⑦チューナー操作キー（学習可能）

本機または、ヤマハのRS対応のチューナーを操作するキーです。  
A/B/C/D/E……プリセットのグループ（A/B/C/D/E）を選択します。  
PRESET ……プリセットされた放送局を選局します。

⑧テープ操作キー（学習可能）

ヤマハのRS対応のテープデッキを操作するキーです。テープデッキのリモコンに表示されているキー名称と同じはたらきをします。  
\*詳しくは、テープデッキの取扱説明書を参照してください。  
DECK A/B ……ダブルデッキのDECK AとDECK Bの選択をします。  
REC/PAUSE ……録音一時停止状態になります。  
DIR A ……DECK Aの走行方向を選択します。  
DIR B ……DECK Bの走行方向を選択します。  
PLAY ……再生をスタートします。  
REC MUTE ……録音中に無録音部分を作るときに押します。  
STOP ……再生または録音の停止。  
◀▶ ……◀方向の早送り。  
▶▶ ……▶方向の早送り。

⑨LD操作キー（学習可能）

ヤマハのRS対応のLDプレーヤー（CDVプレーヤーまたは、CD/CDV/LDプレーヤー）を操作するキーです。LDプレーヤーのリモコンに表示されているキー名称と同じはたらきをします。  
\*詳しくは、LDプレーヤーの取扱説明書を参照してください。  
STOP ……再生の停止  
\*LDプレーヤー付属のリモコンにSTOPキーがある機器のみ動作します。  
PAUSE/STOP ……一度押すと一時停止し、もう一度押すと再生が停止します。  
PLAY ……再生をスタートします。  
CHAPTER / CH ……LDプレーヤー本体のチャプターキーと同じ働きをします。  
SEARCH ▶▶ ……早送り。  
◀◀ ……早戻し。  
STILL ……LDプレーヤー本体の静止画キーと同じ働きをします。  
SOUND ……LDプレーヤー本体の音声切替キーと同じ働きをします。  
DISPLAY ……LDプレーヤー本体の表示切替キーと同じ働きをします。

⑩TESTキー（学習可能）

本機のテストノイズ信号（ザー音）をON、OFFするキーです。  
\*サラウンドモード（EFFECT）がOFFの状態ではテストノイズ信号をON、OFFできません。

⑪CENTER MODEキー（学習可能）

センタースピーカーのモード（NORMAL、WIDE、PHANTOM）を選択するキーです。

⑫FRONT EFFECT LEVELキー（学習可能）

フロントスピーカーのエフェクト（サラウンド）レベルを調節するキーです。

⑬CENTER LEVELキー（学習可能）

センターチャンネルの出力を調節するキーです。

⑭REAR LEVELキー（学習可能）

リア（サラウンド）チャンネルの出力を調節するキーです。

⑮RESETスイッチ

リモコンが動かなくなった場合に、押すスイッチです。（記憶した内容は消えません。）

⑯CLEARスイッチ

学習（記憶）したリモコン信号を消去するキーです。

⑰1/2スイッチ

学習させるときのエリアグループ1・2を切り換えるスイッチです。  
\*詳しくは、27ページを参照してください。

⑱ユーザーパワーキー（学習可能）

他の機器（TV、VCR、AUX）の電源スイッチ機能を学習するキーです。  
\*そのままでは、何も動作しません。必要に応じてキーに対応する機器の電源スイッチ機能を学習させてください。

⑲PLAY/CUTキー（学習可能）

ヤマハのRS対応レコードプレーヤーを演奏（スタート、ストップ）するキーです。  
\*コントロールコードが接続されていないと、動作しません。

⑳INPUT SELECTOR（学習可能）

再生するソースを選択するキーです。

㉑SOUND SELECTOR（学習可能）

サラウンドモードを選択するキーです。

㉒EFFECTキー（学習可能）

サラウンドモードをON、OFFするキーです。

㉓MASTER VOLUMEキー（学習可能）

各スピーカーの音量をコントロールするキーです。

㉔A・Bスイッチ

学習させるときのエリアグループA・Bを切り替えるスイッチです。  
\*詳しくは、27ページを参照してください。

㉕MUTINGキー（学習可能）

各スピーカーの音を消すキーです。

㉖DELAY TIMEキー（学習可能）

ディレイタイム（遅延時間）をコントロールするキーです。

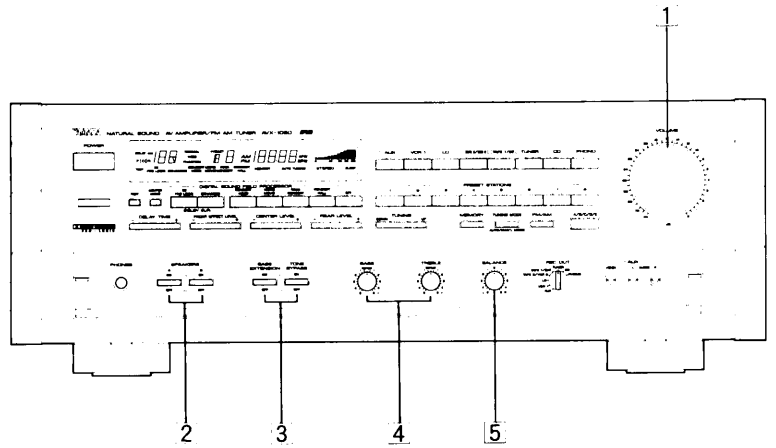
# 再生の準備(1)

## ■各スピーカーの音量レベル調節

フロント（メイン）の音とリアの音、そしてセンターの音のバランスがとれていないと、よい音場効果は得られません。次の手順にしたがって各スピーカーの音量レベルを必ず調節してください。

### 調節の前に

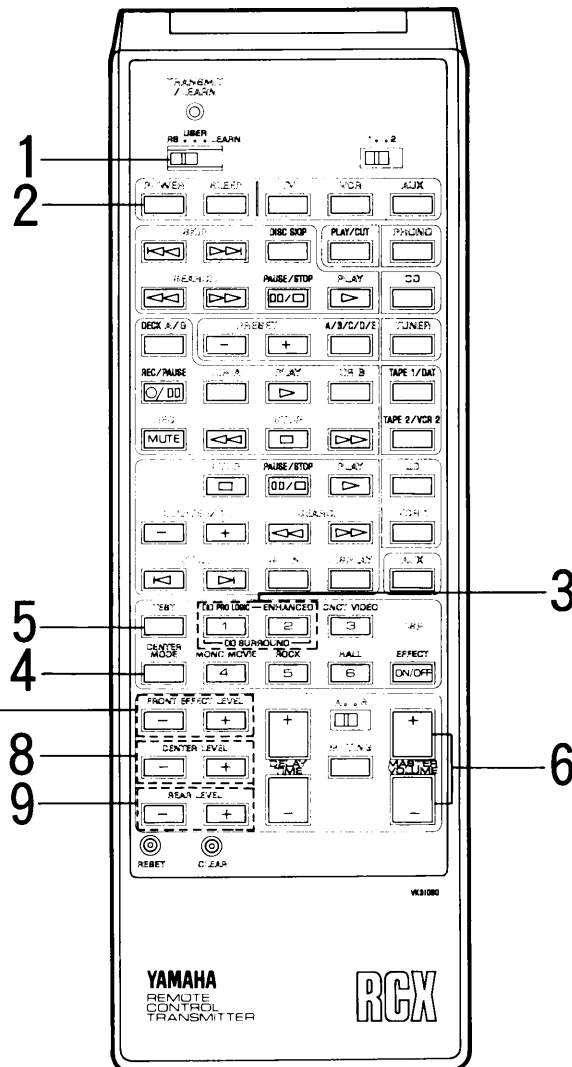
1. VOLUMEを左に回して音量を最小にします。  
シーリングパネルを開けて、各スイッチ、ツマミを次のようにセットしてください。
2. SPEAKERSスイッチで、使用するフロント（メイン）スピーカー（AまたはB、あるいは両方）をON（）にして選択します。
3. BASS EXTENSION、TONE BYPASSスイッチをOFF（）にします。
4. BASS、TREBLEツマミをDEFEAT（中央）にします。
5. BALANCEツマミを“0”（中央）にします。



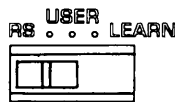
### リスニング位置で、リモコン操作します。

（本体操作でもできますが、必ずリスニング位置で調節してください。）

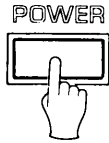
TEST時の音量レベル調節に使用しません。  
（調節するときは、24ページを参照してください。）



1 モードスイッチを“RS”の位置に合わせます。



2 POWERキーを押して、本機の電源を入れます。

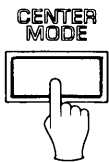


3  SURROUNDキーの1または、2 ( PRO LOGIC, ENHANCED)を押します。



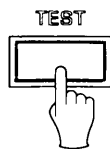
4 CENTER MODEキーを押して、センターモードを選びます

- NORMAL : センタースピーカーに小型のスピーカーを使用するとき
- WIDE : センタースピーカーにフロントスピーカー(メインL, R)と同等のスピーカーを使用するとき
- PHANTOM : センタースピーカーを使用しないときセンターチャンネルの信号を、フロント(メインL, R)スピーカーに振り分けます

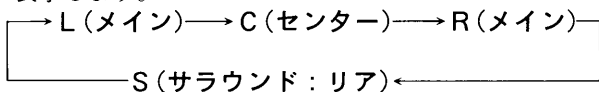


\* 本体表示器のセンターモードインジケータが点灯表示します。

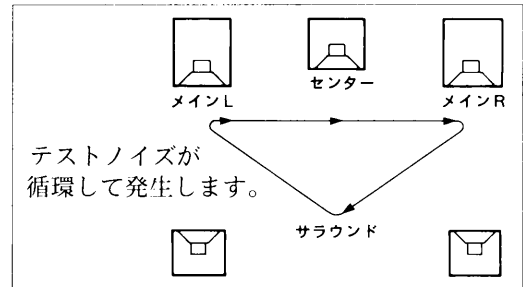
5 TESTキーを押して、テストノイズを発生させます。各スピーカーから順にテストノイズが出力します。



本体表示器のサラウンドマルチインジケータが点灯表示します。



6 MASTER VOLUMEの“+”“-”を押して、通常聞く音量の大きさにします。

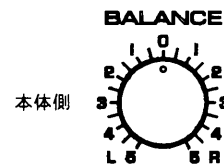


\* C (センター) の出力時、センターモードが“PHANTOM”の場合メインL, R同時に出力します。

\* サラウンド(リア)スピーカーのテストノイズは左右同時に発生します。

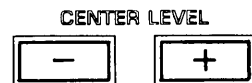
7 L (メイン)、C (センター)、R (メイン)、S (サラウンド) のテストノイズが各々同じ音量となるように調節します。

L (メイン)、R (メイン) の音量が同じになるよう、本体のBALANCEコントロールで調節します。



8 C (センター) の音量がメインの音量と同じでない場合は、CENTER LEVELの“+”“-”キーを押してL (メイン)、R (メイン) と同じ音量となるように調節します。

\* L (メイン)、R (メイン) のテストノイズを基準としてC (センター) を調節します。L (メイン)、R (メイン) の出力レベルは調節できません。



\* センターモードが“PHANTOM”のときには、センターチャンネルの信号はフロント(メインL, R)スピーカーに最適音量で振り分けるためCENTER LEVELを調節しても音量は、変化しません。

9 S (サラウンド: リア) の音量がメインの音量と同じでない場合は、REAR LEVELの“+”“-”キーを押してL (メイン)、R (メイン) と同じ音量となるように調節します。

\* L (メイン)、R (メイン) のテストノイズを基準としてS (サラウンド: リア) を調節します。L (メイン)、R (メイン) の出力レベルは調節できません。

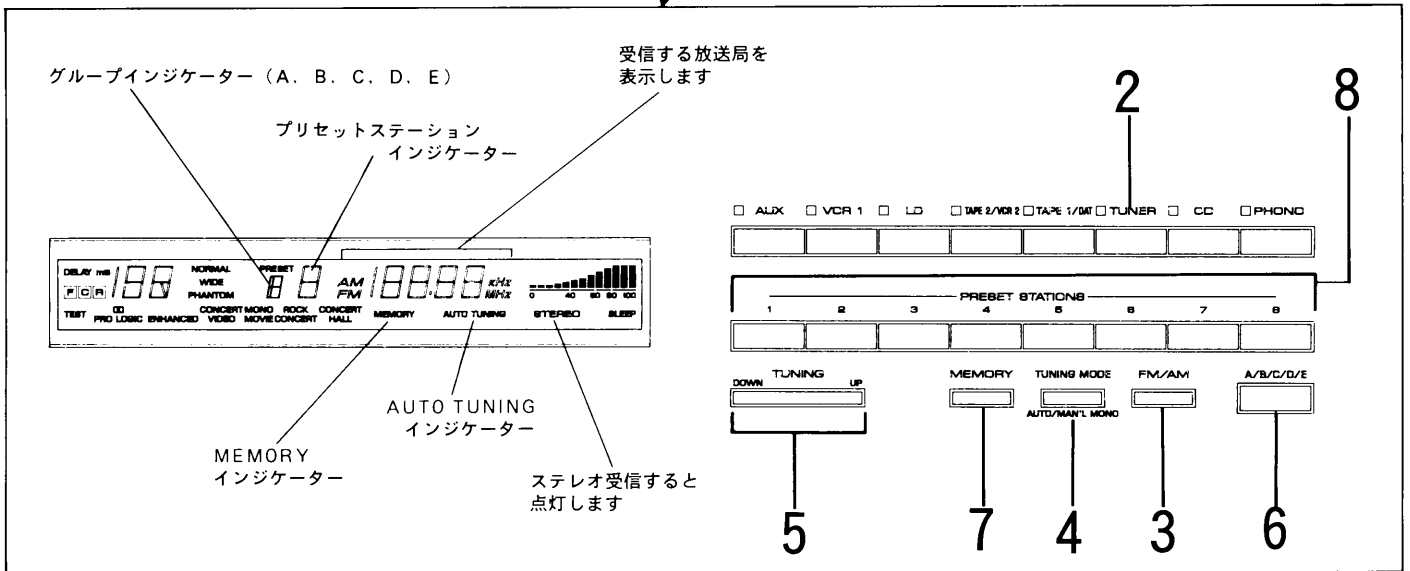
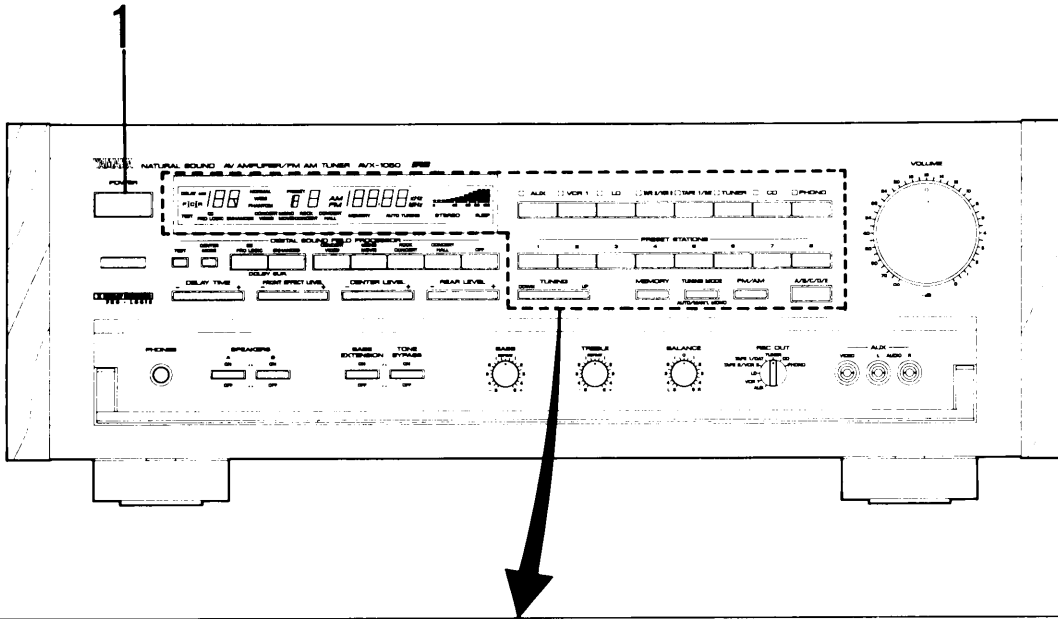


10 以上で調節完了です。  
TESTキーを押してテストノイズの発生を止めます。

# 再生の準備(2)

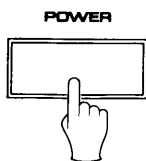
## ■放送局のメモリー

あらかじめ、希望の放送局をプリセットメモリー（記憶）させておきましょう。あとは、キーをワンプッシュするだけで、選局できます。

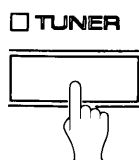


本体側で操作します。

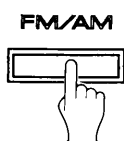
- 1 POWERスイッチを押して、本機の電源を入れます。



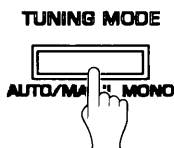
- 2 TUNERキーを押します。



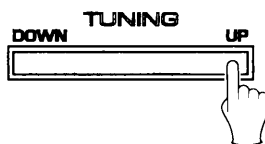
- 3 FM/AMキーで、希望のバンド（FMまたはAM）を選択します。



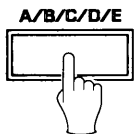
- 4 TUNING MODEキーで、AUTOにします。表示器のAUTO TUNINGインジケータが点灯します。



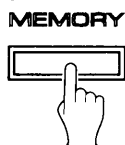
- 5 TUNINGキーのUP側またはDOWN側を押します。放送局を探して自動停止します。（オートチューニング）他の放送局を受信したいときは、もう一度TUNINGキーのUP側またはDOWN側を押して希望の放送局を受信します。  
\* 希望の放送局を受信できない場合は、マニュアル選局してください。



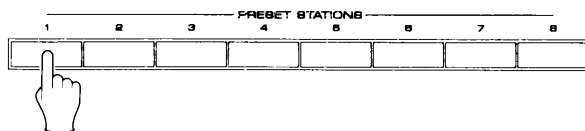
- 6 A/B/C/D/Eキーで希望するプリセットのグループ（A、B、C、D、E）を選択します。表示器のグループインジケータが表示します。



- 7 MEMORYキーを押します。表示器のMEMORYインジケータが点滅し、メモリーできる状態となります。  
\* 再度押すとMEMORYインジケータが消え、メモリーを中止します。



- 8 MEMORYインジケータが点滅（約5秒間）している間にPRESET STATIONSキーで、希望する番号（1から8のいずれか1つ）を押します。表示器のプリセットステーションインジケータが押されたキーの番号を表示し、MEMORYインジケータが消えます。プリセットメモリーが完了したことを示します。



- 9 続けて他の放送局をプリセットメモリーしたい場合は、3～8の手順を繰り返します。FM、AM合わせて40局までプリセットメモリーできます。

- 10 1～9の手順が終わったら、A/B/C/D/EキーとPRESET STATIONSキーを押し、プリセットした放送局を呼び出します。呼び出された放送局を確認してください。

- ・プリセットメモリーした放送局を変えるとき  
1～8の手順で、重ねてプリセットメモリーしますと、前の放送局は消え、新しい放送局に変更することができます。

### ■電波の弱い放送局を受信するには、（マニュアル選局）

電波の弱い放送局の受信は、オートチューニングが止まらないことがあります。この場合、TUNING MODEキーを押して表示器のAUTO TUNINGインジケータが消えた状態で、TUNINGキーのUP側またはDOWN側を押します。（マニュアル選局）

押し続け（1秒以上）ますと、周波数が連続的に変化します。目的の放送局の近くになりましたら、キーをチョン押しして選局してください。

マニュアル選局では、FMステレオ放送を受信してもモノラル受信となりますが雑音は軽減できます。

\* TUNINGキーで選局を止めたところに放送局がない場合には、“ザー”という局間ノイズの出ることがあります。

### ■ラストチャンネルメモリー

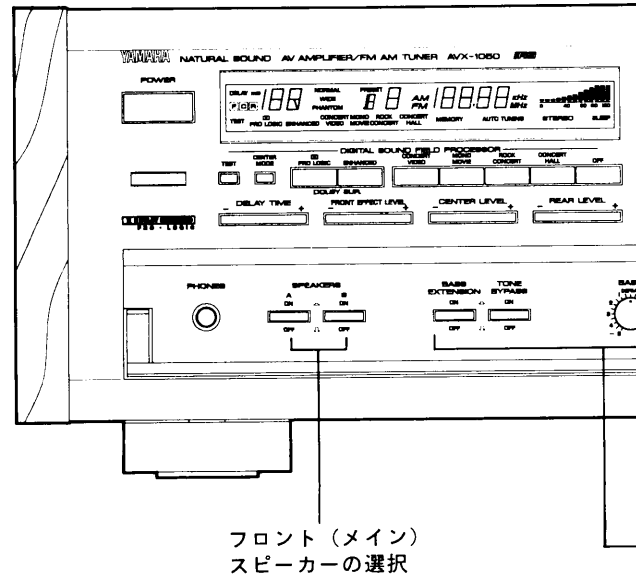
本機は電源を切っても、その直前の放送局や受信モードを記憶しています。再度電源を入れたときは、電源を切る直前の放送局、受信モードになります。

### ■メモリー内容の保持

メモリー内容は、電源がOFF状態でもそのまま記憶しています。ただし、2週間以上電源コードを電源コンセントから外した場合には、メモリー内容が消えることがあります。このような場合には、しばらく通電した後再度プリセットメモリーしてください。

# 再生のしかた

1. 本体のボリュームを最小位置“∞”にする。
2. 各機器の電源を入れる。
3. 本体のSPEAKERSスイッチで、使用するフロント（メイン）スピーカーシステム（AまたはB、あるいは両方）をON（）にして選択します。
4. リモコン操作する場合は、リモコンのモードスイッチを“RS”の位置に合わせます。
5. メニューを選びます。  
レコードを聞くとき ……………（A項参照）  
CDを聞くとき ……………（B項参照）  
チューナーを聞くとき ……………（C項参照）  
TAPE 1 / DATまたは  
TAPE 2 / VCR 2 を聞くとき ……（D項参照）  
LDまたはVCR 1 を聞くとき ……（E項参照）  
AUXを聞くとき ……………（F項参照）



以下本体でも操作できますが、本説明書ではリモコンで説明します。

## (A)レコードを聞くとき

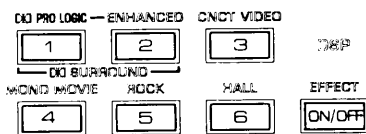
- 1 PHONOを押す。



- 2 レコードプレーヤーを演奏する。
- 3 音量を調節する。



- 4 サラウンドセクターで、お好みのサラウンドモードを選択します。（詳しくは23ページ参照）



### BGV機能

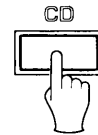
映像と音声を独立して指定できます。

例：LDの映像にCDの音声を再生するとき

インプットセクターで映像ソース（LD、VCR、AUX）を選択したあと、次に音声系ソース（CD、TAPE / DAT、PHONO、TUNER）を選択しますと、映像・音声を独立して指定できます。

## (B)CDを聞くとき

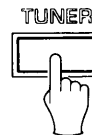
- 1 CDを押す。



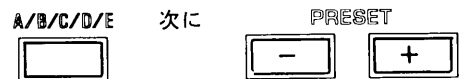
- 2 CDプレーヤーを演奏する。
- 3 音量を調節する。
- 4 サラウンドセクターでお好みのサラウンドモードを選択します。

## (C)チューナーを聞くとき

- 1 TUNERを押す。



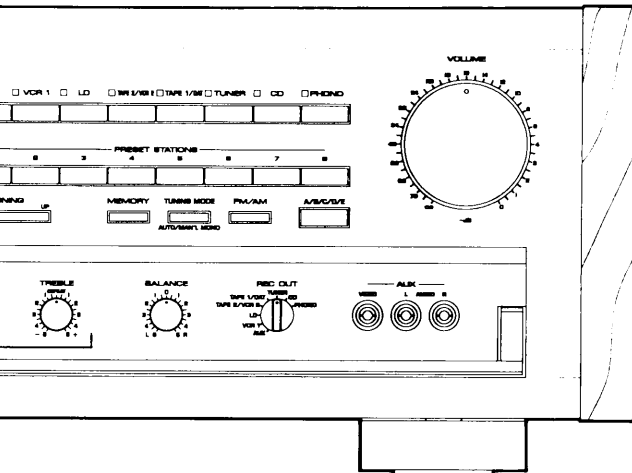
- 2 A / B / C / D / E キーでグループを選び、次に、プリセットキーで聞きたい放送局（プリセットナンバー）を選びます。  
\*まだ放送局をプリセットメモリーしていない場合は19ページの「放送局のメモリー」を参照してください。



グループを選びます。プリセットナンバーを選びます。

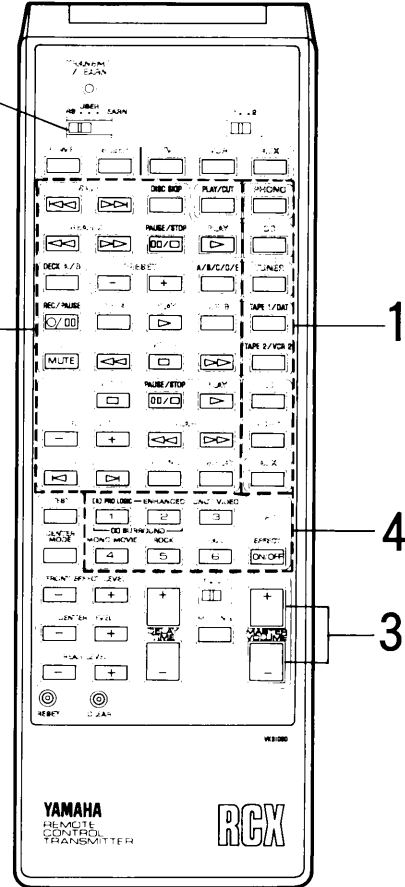
本体は、PRESET STATIONSのナンバーを押します。

- 3 音量を調節する。
- 4 サラウンドセクターでお好みのサラウンドモードを選びます。



必要に応じて音質を調節する。  
(フロント(メイン)スピーカーのみ)

RS位置にセット



2

ヤマハのRSマークのついている機器を操作するとき使います。

**(D) TAPE 1 / DAT または TAPE 2 / VCR 2 を聞くとき**

1 TAPE 1 / DAT または TAPE 2 / VCR 2 を押す。



2 TAPE 1 / DAT または TAPE 2 / VCR 2 を再生する。

3 音量を調節する。

4 サラウンドセクターでお好みのサラウンドモードを選びます。

**■ 通常のスtereo再生する場合**

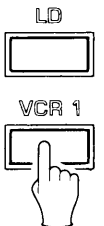
サラウンドモードをOFFにします。通常のスtereo再生ができます。

\* スtereo再生時は、リア(サラウンド)スピーカー、センタースピーカーから音はでません。



**(E) LD または VCR 1 を聞くとき**

1 LD または VCR 1 を押す。



2 LD または VCR 1 を再生する。

3 音量を調節する。

4 サラウンドセクターでお好みのサラウンドモードを選びます。

**(F) AUX を聞くとき**

1 AUX を押す。



2 AUX を再生する。

3 音量を調節する。

4 サラウンドセクターでお好みのサラウンドモードを選びます。

\* 各機器の操作は、それぞれの取扱説明書をご参照ください。

# サラウンド効果

## ■サラウンド効果

本機は、コンサートホールや映画館で体験するような臨場感をリスニングルームに再現する、デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサを搭載しています。再生するソースにより、6種類のサラウンドモードを使い分けてお楽しみください。

## ■サラウンドモードの特長

再生するソースに合わせてサラウンドモードを選んでください。

No.	サラウンド名	特長または最適ソース	ディレイタイム調節範囲
1	<small>ドルビープロ ロジック</small> <b>PRO LOGIC</b>	デジタル処理によるドルビープロロジック、ドルビーエンコード処理された映画を再生するモードです。	15～30ms 初期値 20ms
2	<small>ドルビープロ ロジック</small> <b>PRO LOGIC</b> <small>エンハンスド</small> <b>ENHANCED</b>	ドルビープロロジックのサラウンド信号を拡散させ、映画館と同様のサラウンド効果が得られるモードです。	15～30ms 初期値 20ms
3	<small>コンサート</small> <b>CONCERT</b> <small>ビデオ</small> <b>VIDEO</b>	ポップス、ロック系ライブコンサートの再生に適したモードです。ステージのライブ感と客席の拡がり感が再現されます。	1～100ms 初期値 25ms
4	<small>モノ</small> <b>MONO</b> <small>ムービー</small> <b>MOVIE</b>	古典的な映画館の音場を再現するモードです。程良い響きと拡がりがあり、懐しの名画の再生に適しています。	1～100ms 初期値 25ms
5	<small>ロック</small> <b>ROCK</b> <small>コンサート</small> <b>CONCERT</b>	ロスアンジェルスにある著名なロックライブハウスの音場効果が得られます。	1～100ms 初期値 15ms
6	<small>コンサート</small> <b>CONCERT</b> <small>ホール</small> <b>HALL</b>	響きの豊かな中規模円型ホールの音場効果が得られます。	1～100ms 初期値 30ms

\*サラウンドモードNo.1は、FRONT EFFECT信号を出力しません。

\*サラウンドモードNo.3～6は、CENTER信号を出力しません。

\*サラウンドモードNo.1または2でモノラルソースを再生すると、基本的にセンタースピーカーからの音のみになります。

このとき、フロント（メインL、R）、リヤスピーカーからも小さく音がでることがあります。

（センターモードが“PHANTOM”の場合は、フロントからセンターチャンネルの音がでます。）



## ■DELAY TIMEについて

各サラウンドモードには、ディレイタイムがそれぞれプリセットされていますが、再生するソースやリスニングルームの状況により、ディレイタイムを変えることができます。ディレイタイムを長めに設定しますと、大きめの音場空間が、短かめに設定しますと、小さめの音場空間が創造されます。

- 各サラウンドモードごとにディレイタイムを変えることができます。
- ディレイタイムを初期値に戻したいときは、DELAY TIMEの“+”または“-”キーを押し続けてください。初期値で表示が一旦止まります。

\*TEST ON時、サラウンドモード (EFFECT) OFF時は調節できません。

## ■FRONT EFFECT LEVELについて

フロント (メイン) スピーカーのエフェクト (サラウンド) レベルを調節できます。フロントエフェクトレベルは、80 (初期値) で設定されていますが、好みに合わせて調節 (0~100) してください。

\*ただし  PRO LOGICモードのときは、サラウンド効果の特質上調節はできません。

\*フロントエフェクトレベルを調節しますと他のサラウンドモード ( PRO LOGIC以外) も同じ値 (調節した値) となります。

\*TEST ON時、サラウンドモード (EFFECT) OFF時は調節できません。

## ■CENTER LEVELについて

「各スピーカーの音量レベル調節」(17ページ)を行なった後でも、お好みに応じて調節 (0~100) できます。

\*センターレベルをTEST ON時の設定値に戻したいときは、CENTER LEVELの“+”または“-”キーを押し続けてください。設定値で表示が一旦止まります。

\*サラウンドモードNo.3~6 (23ページ)ときは、サラウンド効果の特質上CENTER LEVELの調節はできません。

\*センターレベルを調節しますとサラウンドNo.1, 2は同じ値となります。

\*サラウンドモード (EFFECT) OFFでは調節できません。

## ■REAR LEVELについて

「各スピーカーの音量レベル調節」(17ページ)を行なった後でも、お好みに応じて調節 (0~100) できます。

\*リアレベルをTEST ON時の設定値に戻したいときは、REAR LEVELの“+”または“-”キーを押し続けてください。設定値で表示が一旦止まります。

\*モノラルソースを  PRO LOGICまたは  PRO LOGIC ENHANCEDモードで再生した場合、調節しても音はでません。

\*リアレベルを調節しますと他のサラウンドモードも同じ値 (調節した値) となります。

\*サラウンドモード (EFFECT) OFFでは調節できません。

## 設定値の記憶について

ディレイタイムやレベル (FRONT EFFECT・CENTER・REAR) の設定値は、電源がOFFの状態でもそのまま記憶しています。ただし約2週間以上電源コードを電源コンセントから外した場合には、元の値 (初期値) に戻ります。

## ■音質と音量バランス (各スピーカー) の関係

- トーンコントロール (BASS・TREBLE) により、フロントのBASSまたはTREBLEを極端にブースト (増強) またはカット (減衰) した場合、センターとリア (サラウンド) の音のつながりが悪くなりますので注意してください。

各スピーカーの音量レベル調節が必要となった場合は、再度17ページの「各スピーカーの音量レベル調節」の項を参照してください。

## 一口メモ

サラウンドマルチインジケータが“--”を表示したとき

サラウンドモードによっては、その特質上 FRONT EFFECT信号やCENTER信号が出力されないことがあります。(23ページ注参照)

またサラウンドモード (EFFECT) OFFにすると、FRONT EFFECT, CENTER, REARの信号は出力されません

このようなときに、各レベルの“-”または“-”キーを操作しますと、“--”調節はキャンセルされ“-”表示します。

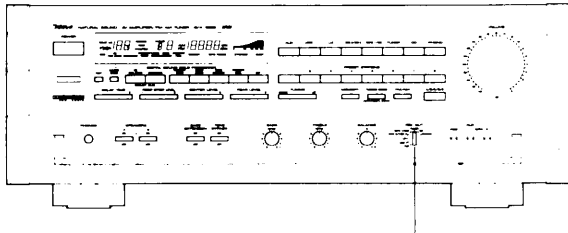
例 FRONT EFFECT LEVELの調節がキャンセルされたとき



# 録音(録画)のしかた

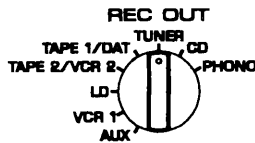
本体側で操作します。

録音(録画)を行なう場合、必ず事前に  
試し録音(録画)を行なってください。



録音ソースを選びます。

- 1 各機器の電源を入れる。
- 2 REC OUTセクターで録音(録画)するソースを選びます。



- PHONO.....レコードを録音するとき
- CD.....CDプレーヤーを録音するとき
- TUNER.....AM/FM放送を録音するとき
- TAPE 1/DAT.....テープ1またはDATを録音するとき
- TAPE 2/VCR 2.....テープ2またはVCR 2を録音(録画)するとき
- LD.....LDプレーヤーを録画するとき
- VCR 1.....VCR 1を録画するとき
- AUX.....フロントパネルのAUX端子に接続した、AV機器を録音するとき

- 3 録音(録画)する機器を操作して、録音(録画)一時停止状態にします。
- 4 録音(録画)するソースの再生をスタートさせ、同時に録音(録画)する機器を操作して、録音(録画)を始めます。

・録音(録画)はインプットセクターと独立して行なえますので、録音(録画)中に他のソースを楽しむことができます。  
(録音・録画中にインプットセクターを操作しても)録音・録画には影響ありません。

・S VIDEO端子からの録画は、S VIDEO端子同志のみ有効です。

・3ヘッド搭載のテープデッキをご使用の方は、録音内容をモニターすることができます。その場合は録音している機器にインプットセクターを合わせます。

\*詳しくは、テープデッキの取扱説明書を参照してください。

録音(録画)中にトーンコントロール・BASS EXTENSION・バランス・ボリューム・サラウンドモードなどを操作しても録音(録画)には影響ありません。

## タイマー再生/録音(録画)のしかた

本機は電源を切る前の状態を内蔵のマイコンが記憶していますので(1時間程度の通電で約2週間)市販のオーディオタイマーと組み合わせることにより、タイマー再生やタイマー録音・録画をすることができます。

●ご使用になる機器やオーディオタイマーにより操作方法が異なることがありますので、それらの取扱説明書もあわせてご参照ください。

### ■タイマー再生のしかた

#### ●接続のしかた

- 1 本機の電源プラグをオーディオタイマーに接続します。
- 2 本機のAC OUTLETにタイマー再生する機器の電源プラグを接続します。  
(このとき本機に接続する機器の消費電力の合計が、AC OUTLETの供給電力を超えないようにご注意ください)

#### ●操作のしかた

- 1 すべての機器の電源をONにします。
- 2 本機のインプットセクターでタイマー再生する機器を選択します。
- 3 再生する機器を操作し、タイマー再生が可能な状態にセットします。
- 4 本機のVOLUMEを適当な音量に調整します。
- 5 タイマー再生開始時間および終了時間をオーディオタイマーでセットします。  
これでご希望の時間になりますと、タイマー再生が開始されます。

### ■タイマー録音のしかた

#### ●接続のしかた

- 1 本機の電源プラグをオーディオタイマーのコンセントに接続します。
- 2 録音する機器(デッキ)の電源プラグを本機のAC OUTLETに接続します。(このとき本機に接続する機器の消費電力の合計が、AC OUTLETの供給電力を超えないようにご注意ください)

#### ●操作のしかた

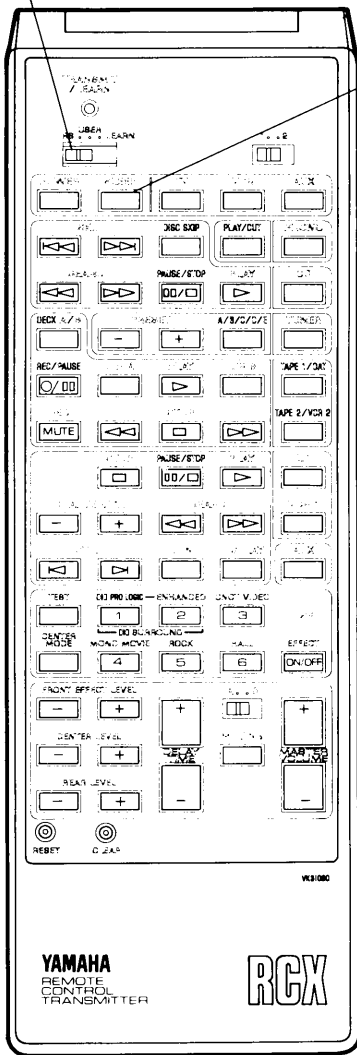
- 1 すべての機器の電源をONにします。
- 2 本機のREC OUTセクターで録音するソースを選びます。
- 3 チューナーなど録音する機器およびデッキを操作して、録音できるようにセットします。
- 4 録音の開始時間および終了時間をオーディオタイマーでセットします。  
これで予定の時間になりますと、タイマー録音をすることができます。  
\*タイマー録音時に音出しが不要の場合は、SPEAKERSスイッチをOFFにしておきます。

# スリープタイマー

スリープタイマーをセットしておく、放送など聞きながらおやすみになっても自動的に電源が切れますので大変便利です。

リモコン側で操作します。

“RS”位置にセット



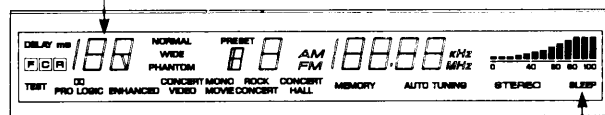
1

SLEEPキーを押すごとに前回設定値から始まって  
→120→90→60→30→OFF となります。

(単位：分)

設定した時間が経過すると、自動的に本機の  
電源が切れます。

設定した時間を表示する。  
設定後(約2秒後)には元の表示に戻ります。



本体の表示器

スリープタイマーをセット  
すると点灯します。

〔設定中は点滅。  
SLEEP OFF時は消灯。〕

\*TEST ON時は、スリープタイマー設定できません。

\*スリープタイマーは、一度電源をOFFすると解除します。

\*スリープタイマーを使用するソースは、チューナーまたは、  
本機のSWITCHED側(リアパネル)へ接続した機器の  
ソースを選択してください。  
それ以外のソースを選択した場合、本機の電源は切れます  
がソース側の機器の電源は切れません。

## バックアップについて

本機の電源をON/OFFしてもインプットセクター・プリ  
セットメモリー・サラウンドモード・ディレイタイム・レベ  
ル(FRONT EFFECT, CENTER, REAR) CENTER  
MODE等のポジションおよび内容が消えず記憶(メモ  
リー)しております。

本機はそれらのメモリー内容を保持するために特殊なコンデ  
ンサーを内蔵してバックアップしていますので約2週間は電  
源コードを電源コンセントから外してもメモリー内容はそ  
のまま記憶しています。

ただし、2週間以上電源コードを電源コンセントから外した  
場合には、バックアップしているコンデンサーが放電してし  
まいメモリー内容が消えることがあります。

このような場合には、1時間程度通電した後再度音量レベ  
ル調節(17ページ)・放送局のメモリー(19ページ)を行なっ  
てください。

\*電源コードを電源コンセントに接続し電源が供給されてい  
る場合は、電源をOFFしていても常にバックアップされ  
ていますのでメモリー内容が消えることはありません。

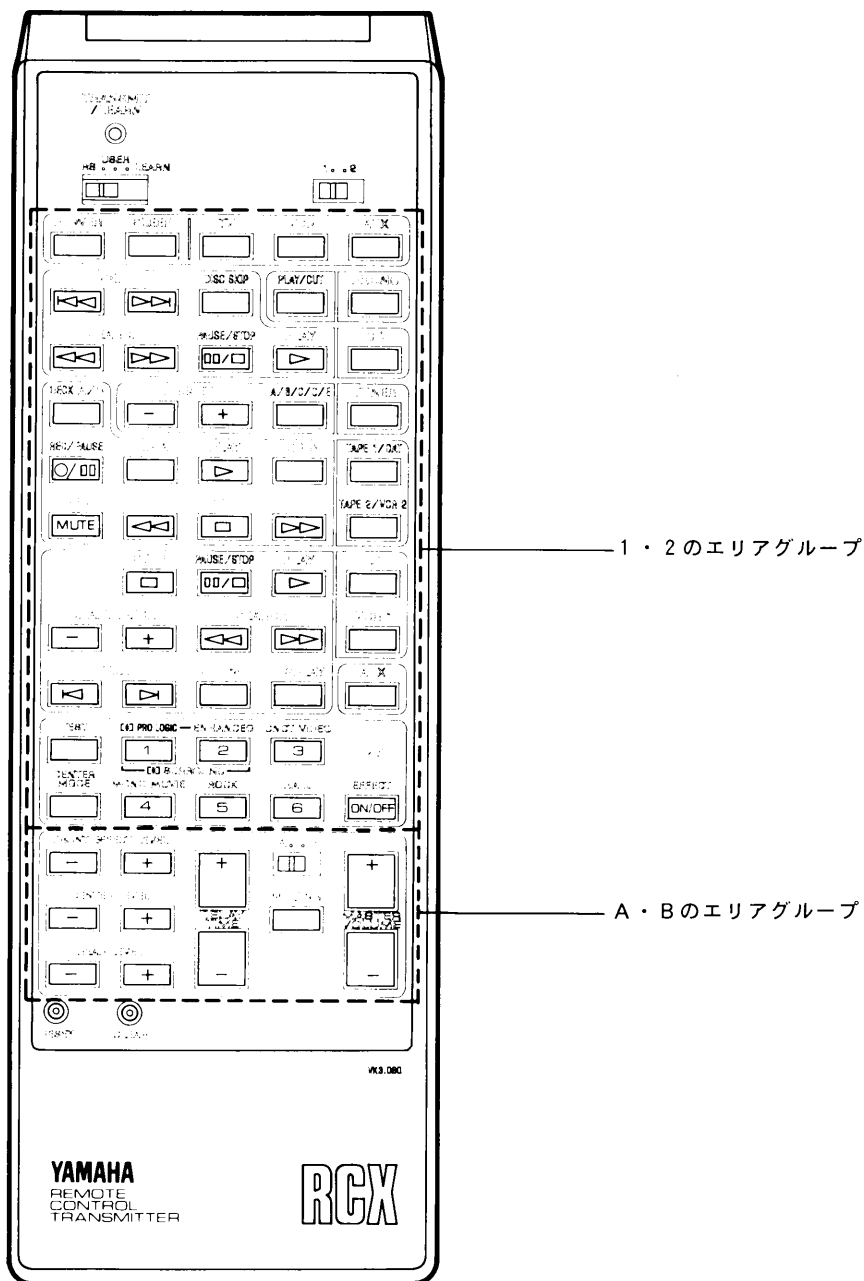
# リモコンの学習操作

本機のリモコンは、学習（記憶）機能を持つリモコンです。ヤマハのRS対応機器を動作させるだけでなく他のAV機器もリモコン操作することができます。また、1/2スイッチとA/Bスイッチによって1つのキーに2つの機能を持たせることができますので、最大128キーまで学習が可能です。

\*学習したリモコン信号の量によっては、全キーに記憶できない場合があります。

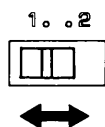
## ■学習（記憶）のしかた

学習する際、リモコンのキー名称と機能表示（▶▶▶, ◻ など）を一致させた方が使いやすくなりますので、対応するように学習するキーを選択してください。キー名称と違った機能を学習させた場合は、付属のリモコンシートに学習させたキー名称または記号を記入してパネル上におくと便利です。



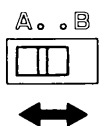
# 1 1・2のエリアのキーを学習させたい場合

1・2スイッチを好みの位置（1または2）に合わせます。

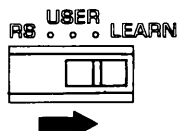


# A・Bエリアのキーを学習させたい場合

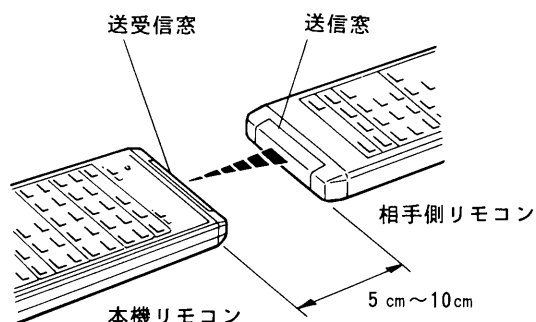
A・Bスイッチを好みの位置（AまたはB）に合わせます。



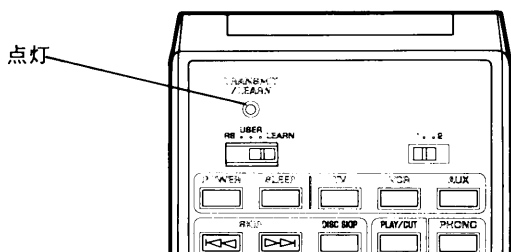
# 2 モードスイッチを“LEARN”の位置に合わせます。



# 3 相手側のリモコン送信窓と本機リモコンの受信窓を5cm～10cmの間隔で向い合わせます。



# 4 本機側の学習させたいキーを押してTRANSMIT/LEARNインジケータを点灯させます。

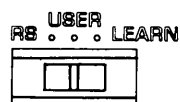


# 5 相手側の学習させたいキーを、TRANSMIT/LEARNインジケータが消えるまで押し続けます。

\* 正しく学習できない場合やメモリー容量がオーバーした場合は、相手側の信号を受信後TRANSMIT/LEARNインジケータが点滅します。（約3秒 8回点滅）

# 6 続けて他のキーを学習させたい場合は、3、4、5の手順を繰り返します。

# 7 1～6の手順が終わったら本機のモードスイッチを“USER”の位置に合わせます。



# 8 学習したキーを押して、リモコン操作の確認をしてください。

## 学習するためのご注意

1. 本機リモコンは、赤外線方式を使用しています。相手側リモコンが同じ赤外線方式であれば、ほとんどのリモコン信号を学習することが可能ですが、特殊な信号や非常に長い信号の場合、学習できないことがあります。（相手側の取扱説明書を参照してください。）

\* メモリー容量一杯になっている場合はそれ以上学習させる事ができません。

その場合、不要なキーを消去動作（次の消去のしかた）により消して新しいリモコン信号を学習することができます。

2. 上記以外で学習できない場合は、次の点をチェックしてください。

- 相手側リモコンの電池が消耗していませんか？  
この場合相手側リモコンで機器の操作ができていても本機リモコンは、操作できない場合があります。
- 学習する際に相手側リモコンとの距離が近すぎるか、遠すぎませんでしたか？
- 直射日光など強い光が当たっているところで学習しませんでしたか？

## ■消去のしかた

### 1 キーを消す場合

1. モードスイッチを“USER”の位置に合わせます。
2. CLEARスイッチをボールペン等（先のとがった物）で押しながら消去したいキーを押して、TRANSMIT/LEARNインジケータが点滅し終わるまで（約2秒 3回点滅）押し続けます。

\* 点滅の途中で押すのを止めた場合、消去動作は無効となります。

### 全キーを消す場合

1. モードスイッチを“LEARN”の位置に合わせます。
2. CLEARスイッチをボールペン等（先のとがった物）で押しながら任意のキーを押して、TRANSMIT/LEARNインジケータが点滅し終わるまで（約5秒 7回点滅）押し続けます。

\* 点滅の途中で押すのを止めた場合、消去動作は無効となります。

• 消去しますと、元の初期状態（RSモードと同じリモコンコード）となります。

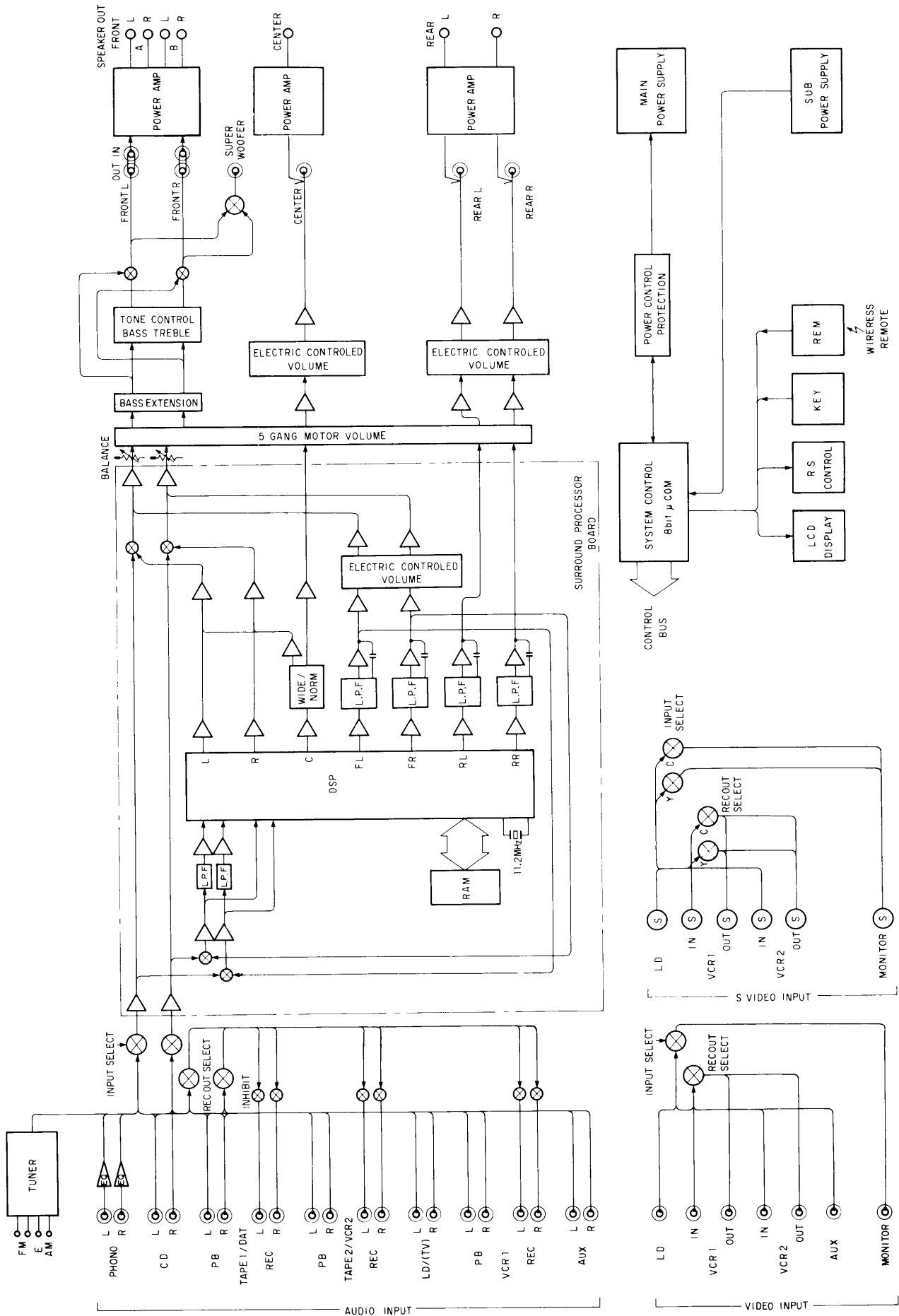
# 故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しないとき、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点に、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

●本機を使用中に強い外来ノイズ（落雷、過大な静電気等）を受けた場合や誤った操作をした場合などに、本機が正常に動作しない場合があります。このような時は一度電源コードを抜き、約30秒後にふたたびつないで操作をやり直してください。

	どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
ア ン プ 部	POWERスイッチを押しても電源が入らない	電源プラグの接続が不完全	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください
	音が出ない	インプットセレクターが、再生したいプログラムソースにセットされていない	再生したいプログラムソースのインジケータを点灯させてください
		ボリュームが絞られている	VOLUMEコントロールまたはリモコンのVOLUMEで、音量を上げてください
		MUTINGがONになっている	一度VOLUMEコントロールを左に回しきり、リモコンでMUTINGをOFFにし、再度音量を調整してください
		接続が不完全	接続を確認してください
	片チャンネルの音が出ない	BALANCEコントロールがどちらか一方に回し切られている	BALANCEコントロールで左右の音量バランスを調整してください
		接続が不完全	接続を確認してください
	ハム音ができる	ピンプラグコードの接続が不完全	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください
		レコードプレーヤーのアースコードを接続していない	アースコードを本機のGND端子に接続してください
	レコード演奏のときに音が小さい	MCカートリッジを装着したレコードプレーヤーを演奏している	MCカートリッジ装着のレコードプレーヤーはMCヘッドアンプを使って本機に接続してください
サラウンド（リア）スピーカーから音がでない	リアレベルが最小になっている	REAR LEVELキーの+側を押して、レベルを上げてください	
	モノラルソースを再生中にサラウンドモードを1または2にしている	サラウンドモード1または2はモノラルソースには対応していません。サラウンドモード3～6を選択して再生してください	
センタースピーカーから音がでない	センターレベルが最小になっている	CENTER LEVELキーの+側を押して、レベルを上げてください	
	センターモードが“PHANTOM”になっている	CENTER MODEキーを押して“NORMAL”または“WIDE”を選択してください	
	サラウンドモードNo.3～6を選択している	サラウンドモードNo.3～6ではセンタースピーカーから音はでません	
F M 放 送 受 信 時	“バリバリ、ガリガリ”という雑音時々入る（電波の弱い地域ほど著しい）	モーターバイクや自動車などのイグニッションノイズ サーモスタットつき電気器具の雑音	FM専用アンテナをできるだけ高く、道路から離れた位置に建て、同軸ケーブルを使用してください 雑音を発生している電気器具に雑音防止器を取り付けてみてください
	ステレオ放送になると雑音が多くなり聞きづらい	FMステレオ放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力が弱い場合に起こる	アンテナの接続を確認してください FM専用アンテナを建ててください
	オートサーチ（自動選局）ができない		FM専用アンテナを多素子のものにしてみてください マニュアルで選局してみてください
	ステレオ放送受信時、STEREOインジケータがチカチカ点滅し雑音も多い	アンテナ入力の不足	受信地域の電界強度に合ったアンテナを建ててください
	プリセット選局ができない	プリセット（メモリー）が消えている	再度プリセットしてください
A M 放 送 受 信 時	感度が充分にない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が確実でない	AMループアンテナを取り付け直してください AMループアンテナの方向を変えてみてください マニュアルで選局してみてください
	オートサーチ（自動選局）ができない		屋外にAM用のアンテナを張ってみてください
	“ジー”、“ザー”、“ガリガリ”などの連続雑音が出る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具による雑音	AM屋外アンテナを張り、アースを完全にとると減少しますが、完全に除去するのは困難です
リ モ コ ン	リモコンで操作できない	乾電池が消耗している	乾電池を2本とも交換してください
		リモコン操作範囲から外れている	本体のリモコン受光窓に対して7m以内、角度30度以内の範囲で操作してください
		受光部に強い日光や照明（インバーター蛍光灯・ストロボライトなど）があたっている	照明または本体の向きを変えてください
		RESETスイッチを一度押してください。（15ページのイラスト15参照） 記憶した内容は消えません。	
そ の 他	本機に接続している機器にヘッドホンを接続してモニターをすると音が歪む	本機の電源をOFFにしている	本機の電源をONにしてください
	サラウンド効果の付加された音が録音されない	本機のTAPE、VCR端子に接続した録音機器で、サラウンド効果の付加した音を録音することはできません	

# ブロックダイアグラム



# ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

## ●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

## ●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

## ●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

## ●修理可能の範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますのでエージングの差による音色の違いが出る場合があります。

## ●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## ●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

## ●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

## ■ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(ヤマハA・V製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お預かり窓口)

北海道 〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内  
Tel(011)513-5036

仙台 〒983 仙台市若林区卸町5-7  
仙台卸商共同配送センター3F  
Tel(022)236-0249

新潟 〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーホールビル2F  
Tel(025)243-4321

東京 〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル  
Tel(03)3255-2241

首都圏 〒211 川崎市中原区木月1184  
Tel(044)434-3100

浜松 〒435 浜松市上西町911 ヤマハ株宮竹工場内  
Tel(053)465-1158

名古屋 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2  
ヤマハ株名古屋流通センター3F  
Tel(052)652-2230

大阪 〒565 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ株千里丘センター内  
Tel(06)877-5262

神戸 〒650 神戸市中央区元町2-7-3 ヤマハ株神戸店内  
Tel(078)321-1195

四国 〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ株高松店内  
Tel(0878)22-3045

広島 〒731-01 広島市安佐南区西原2-27-39  
Tel(082)874-3787

九州 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4  
Tel(092)472-2134

## ■お客様ご相談窓口

(ヤマハA・V製品に対するお問合せ窓口)

東京 〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F  
東京事業所 Tel(03)3255-5691

Tel(03)3255-6767

名古屋 〒460 名古屋市中区錦一丁目18-28  
名古屋営業所 Tel(052)232-5740

大阪 〒556 大阪市浪速区難波中1-13-17  
なんば辻本ニッセイビル  
大阪事業所 Tel(06)647-6411

本社 〒430 浜松市中沢町10-1  
A・V機器事業部  
お客様ご相談センター  
Tel(053)460-3409

## ヤマハ株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

A・V機器事業部

営業部

Tel(053)460-3451

品質保証室

Tel(053)460-3405

住所および電話番号は変更になることがあります。



# 参考仕様

## ■オーディオ部

定格出力 (20Hz~20kHz)	
フロント	0.015%THD、8Ω 100W・100W 0.015%THD、6Ω 120W・120W
センター	0.015%THD、8Ω 100W 0.015%THD、6Ω 120W
リア	0.08%THD、8Ω 30W・30W 0.08%THD、6Ω 35W・35W
実用最大出力 (EIAJ、1kHz)	
フロント	10%THD、6Ω 180W・180W
センター	10%THD、6Ω 180W
リア	10%THD、6Ω 50W・50W
ダンピングファクター	
1kHz、8Ω	55
入力感度/入力インピーダンス	
PHONO MM	2.5mV/47kΩ
CD他	150mV/47kΩ
FRONT IN	1V/47kΩ
最大許容入力 (1kHz)	
PHONO MM	0.01%THD 90mV
出力電圧/出力インピーダンス	
REC OUT	150mV/470Ω
FRONT OUT	1V/3.3kΩ
CENTER OUT	1V/3.3kΩ
REAR OUT	1V/3.3kΩ
SUPER WOOFER	0.8V/3.9kΩ
最大出力 (20Hz~20kHz)	
FRONT OUT	0.01%THD 4.8V
ヘッドホン出力/出力インピーダンス	
1kHz、0.01%THD、RL=8Ω	0.6V/390Ω
周波数特性 (20Hz~20kHz)	
CD他	0±1.5dB
FRONT IN	0±0.3dB
RIAA偏差	
PHONO MM	±0.5dB
全高調波歪率 (20Hz~20kHz)	
PHONO MM→REC OUT 1V	0.01%
CD他→FRONT OUT 1V	0.008%
FRONT IN→SP OUT 50W/8Ω	0.008%
S/N比 (HF-A)	
PHONO MM (2.5mV入力ショート)	80dB
CD他 (入力ショート)	93dB
残留ノイズ (HF-A)	
	150μV
チャンネルセパレーション (1kHz)	
PHONO MM (Vol 30dBショート)	60dB
CD他 (Vol 30dB 5.1kΩ)	60dB
トーンコントロール	
BASS 可変幅	±10dB (50Hz)
ターンオーバー周波数	350Hz
TRABLE 可変幅	±10dB (20kHz)
ターンオーバー周波数	3.5kHz
バスエクステンション	±7dB (50Hz)
オーディオミュート	±dB

## ■FMチューナー部

受信周波数	76.0~90.0MHz
50dB SN感度 (75Ω)	
MONO	1.55μV (15.1dBf)
STEREO	21μV (37.7dBf)
実用感度 (MONO、75Ω)	0.8μV (9.3dBf)
イメージ防害比	60dB
IF防害比	90dB
スプリアス防害比	80dB
AM抑圧比	55dB

キャプチャレシオ	1.5dB
実効選択度	85dB
S/N比 (HF)	
MONO	81dB
STEREO	76dB
歪率 (1kHz)	
MONO	0.1%
STEREO	0.2%
ステレオセパレーション (1kHz)	
	50dB
周波数特性 (20Hz~15kHz)	
	0±1.5dB
出力レベル/インピーダンス	
FM 100%変調、1kHz	700mV 470Ω

## ■AMチューナー部

受信周波数	531~1611kHz
実用感度	100μV/m
選択度	32dB
S/N比	50dB
イメージ防害比	40dB
スプリアス防害比	50dB
全高調波歪 (400Hz)	0.3%
出力レベル/インピーダンス	
AM 30%変調、400Hz	200mV 470Ω

## ■ビデオ部

ビデオ信号方式	NTSC
ビデオ信号	1Vp-p 75Ω
Sビデオ信号	Y: 1Vp-p 75Ω C: 0.286Vp-p 75Ω
最大許容入力	1.5Vp-p
S/N比	50dB
周波数帯域	5Hz~10MHz、±3dB 水平解像度 800本相当

## ■総合

電源電圧	AC100V 50/60Hz
消費電力	335W
ACアウトレット	
SWITCHED・2	TOTAL 100Wmax
UNSWITCHED・1	200Wmax
寸法 (W×H×D)	473・172・468.5mm
重量	20.1kg
付属品	リモコン、単3アルカリ乾電池 (2本) リモコンシート (2枚) AMループアンテナセット FMプラグアダプター FM簡易アンテナ

\*仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります

**YAMAHA**